

リスト加除対象の候補種一覧 <植物>

資料 3 - 4

【国外由来の外來種】

現行リスト掲載種と現行リスト作成時に検討対象となったが掲載外とした種について、現行リスト公表後に情報更新した部分

掲載(変更) : 現行リスト掲載種で変更がある種。
削除(候補) : 現行リスト掲載種で削除を検討する種。
再検討 : 現行リスト作成時に掲載外とした種で、今回新たな情報追加により再検討を行う。
再検討(候補) : 現行リスト作成時に掲載外とした種で、今回新たな情報追加により再検討を行う掲載候補種。
新規 : 現行リスト作成後の新規の追加種。
新規(候補) : 現行リスト作成後の新規の追加種で、掲載候補種。

(1)現行リスト掲載種

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等		
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散											
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入										
削除(候補)		2	未定着	カバノキ	ヨーロッパハシノキ(オウシュウクロハシノキ、セイヨウヤマハシノキ、グルチノザハシノキ)	湿地	IV	◎	◎	(◎)	－	○	○	(◎)	○	(◎)	－	－	－	○	－	－	－	20m、落葉高木	湖沼、自然林、植林地、河川敷、市街地、荒地、湿地に生育する。日当たりの良い、湿った土壌を好むが、乾燥にも耐える。窒素固定を行う。	北海道、青森県、岩手県で植栽。海外では、浸食防止、土壌改良、観賞用に植栽される。	⑩海外:ISSG、⑫角野委員(削除)	便覧、有用、園芸事典、JF			
削除(候補)		3	未定着	クワ	フランスゴムノキ(コバノゴムビワ、コバノゴム)		IV	○	◎	(◎)	－	－	◎	(◎)	○	(◎)	－	－	－	○	－	－	－	30m、常緑高木	自然林、植林地、川岸、低木林、市街地。環境への適応の幅は広い。	日本で観賞用に販売されている。海外では、日陰樹や街路樹等として広く植えらるる。	種特異的な受粉者がいないと種子をつけない。同じイチジク属のガジュマルは、小笠原で問題になっている。	⑩海外:ISSG、⑫角野委員(削除)	JF		
削除(候補)		5	未定着	カエデ	ノルウェーカエデ(ヨーロッパカエデ)		IV	◎	◎	(◎)	－	－	◎	(◎)	◎	(◎)	－	－	－	○	－	－	－	28m、落葉高木	海岸、自然林、植林地、攪乱地、市街地に生育する。湿潤な温帯地域に生育する。生長が早く、様々な土壌環境に適応する。耐陰性や耐干性があり、病気への耐性があり、海岸にも生育する。	庭園樹、街路樹、公園樹に利用。葉が周年暗紅色の園芸品種も育成。日本でも流通しており、近年庭木等として用いられている。	日本にはカエデ属の種類が多いことから、定着する可能性が高いと考えられる。日本での栽培成績からは、少なくとも暖地では非常に弱い。雌雄同株。APG分類体系ではムクロジ科。	⑩海外:ISSG、⑫角野委員(削除)	有用、JF、日本造園学会		
掲載(変更)		6	未定着→定着初期／限定分布	カエデ	アメリカハナノキ(ベニカエデ、アカカエデ)	ハナノキの生育地の周辺	I	○	◎	－	－	－	◎	○	○	○	－	－	－	◎	－	－	－	40m、落葉高木	沼沢地や川岸に生える。	庭木、公園樹、並木として利用される。	絶滅危惧Ⅱ類(VU)のハナノキの遺伝的攪乱を引き起こしている。APG分類体系ではムクロジ科。	⑪その他:勝木委員	樹木、日本生態学会第60回全国大会(2013)講演要旨、GCW、菊池ら2015		
削除(候補)		7	未定着	グミ	ホソグミ(ロシアンオリーブ、ヤナギバグミ、スナナツヅ)	湿地や河原	IV	○	◎	(◎)	－	－	◎	(◎)	○	(◎)	－	－	－	○	－	－	－	9m、落葉低木、刺がある	農耕地、氾濫原、川岸、水路、湿地、森林に生育する。実生には耐陰性があり、貧栄養な環境を含み、様々な土壌、水分条件に生育する。他の低木や木本との競争に耐え、萌芽生長により広がる。	日本でも、観葉植物として、販売されている。海外では、果実は食用にされ、栽培されることもある。中国西部では薬用にされる。	日本にはグミ属の在来種が数多くあることから、定着する可能性が高いと考えられる。	⑩海外:ISSG、⑫角野委員(削除)	有用、Ylist、園芸事典		
削除(候補)		9	小笠原・南西諸島／未定着	ヤルマ	ヤツテグワ(ガルト)		IV	◎	○	(◎)	－	－	◎	(◎)	○	(◎)	○	－	－	○	－	－	－	20m、常緑高木	森林の低地に多いが、攪乱地、溶岩層、森林のギャップ、植林地などに生育する。	沖縄等の暖地や温室などで観賞用に栽培される。果実は甘くて海外では食用にされる。薬用になる。	旧分類のイラクサ科。種子は果実食の鳥に運ばれる。	①要注意、②W100:IUCN、⑩海外:ISSG、⑫角野委員(削除)	ブラジル、外来生物、藤井委員		
削除(候補)		10	小笠原・南西諸島／未定着	ヤルマ	ケクロピア・シュレベリアナ		IV	◎	○	(◎)	－	－	◎	(◎)	○	(◎)	○	－	－	○	－	－	－	20m、常緑高木	日当たりの良い肥沃地を好む。自然林、植林地、草地、川岸、攪乱地に生育する。	日本では温室での栽培例がある。	旧分類のイラクサ科。種子は果実食の鳥やコウモリに運ばれる。辻・日置(2017)は本種には侵略性がないと評価している。	⑩海外:ISSG、⑫角野委員(削除)	藤井委員、辻・日置2017		
削除(候補)		11	小笠原・南西諸島／未定着	トベラ	シマトベラ(トウソゴ)		IV	◎	◎	(◎)	－	－	◎	(◎)	○	(◎)	○	－	－	○	－	－	－	14m、常緑低木	オーストラリア東部原産。ヨーロッパ南部、アフリカ南部、オーストラリア、ニュージーランド、北アメリカ、南アメリカ、大西洋諸島、ハワイ、台湾に分布。	二	関東の無加温温室で越冬。自然林、草地、河川敷、攪乱地、低木林に生育する。	日本でも栽培されている。海外では、防風や観賞用に植えられ、材はゴルフクラブや薪炭に利用され、蜜源にもなる。	有毒物質のサポニンを含み、他の植物の生育を阻害する。小笠原諸島の固有種の新種に誤認された。	⑩海外:ISSG、⑫角野委員(削除)	園芸事典、IPSW、牧野、豊田(2014)
削除(候補)		12	小笠原・南西諸島／未定着	フトモモ	タチバナアデク(ピタンガ、スリナムチェリー、ブラジリアンチェリー、カイエンチェリー、カボチャアデク)		IV	◎	◎	(◎)	－	－	○	(◎)	○	(◎)	○	－	－	○	－	－	－	10m、常緑の低木または小高木	ブラジル原産。熱帯アメリカに分布。アジア、オーストラリア、ヨーロッパ、北アメリカ、アフリカ南部にも導入。	－	自然林、植林、草原、低木林。海外では、果樹として栽培されたものが野生化。	日本でも流通している。果樹として熱帯各地で栽培される。海外では薬用にされる。	⑦各県:沖縄、⑩海外:ISSG、⑫角野委員(削除)	有用、Ylist、JF	
削除(候補)		13	小笠原・南西諸島／未定着	フトモモ	ムラサキフトモモ(アマゾンオリーブ、ジャンボラン、ヨウミヤクアデク、メシゲラック、ムレザキフトモモ)		IV	◎	◎	(◎)	－	－	◎	(◎)	○	(◎)	○	－	－	○	－	－	－	30m、常緑高木	インドからマレーシア原産。東南アジア、オーストラリア北部、アフリカ、合衆国南東部、熱帯アメリカ、太平洋諸島に分布。	－	自然林に生育する。熱帯および亜熱帯気候の広い環境条件で生育する。洪水や干ばつにも耐える。	各地で紫色の果実を食用にするために栽培される。観賞用、薬用、木材などに利用される。種なしの品種もある。日本でも流通している。	⑩海外:ISSG、⑫角野委員(削除)	有用、Ylist、JF	
削除(候補)		14	小笠原・南西諸島／未定着	ノボタン	アメリカクサノボタン(クリデミア・ヒルタ)		IV	◎	◎	(◎)	－	－	◎	(◎)	○	(◎)	○	－	－	○	－	－	－	4m、常緑低木	熱帯アメリカ原産。熱帯アフリカ、熱帯アジア、太平洋諸島やインド洋に導入。	－	自然林、草原、水辺、攪乱地、低木林に生育する。	海外では観賞用等に栽培される。日本では植物園の温室で栽培される。温室の鉢物により。	軟弱そうに見えるが、丈夫で、年中花が咲き実がつく。増殖は実生で行い、発芽もよい、挿し木もできる。南西諸島や小笠原では、大きな脅威になる可能性がある。	①要注意、②W100:IUCN、③村中:C、⑩海外:ISSG、⑪その他:藤井委員、⑫角野委員(削除)	園芸事典、藤井委員
削除(候補)		15	小笠原・南西諸島／未定着	ウコギ	シェフレラ・アクチノフィラ(ブラッサリア、オクトバズリー、ハナフカノキ)		IV	○	◎	(◎)	－	－	◎	(◎)	○	(◎)	○	－	－	○	－	－	－	30m、常緑高木	オーストラリア、ニュージーニア原産。合衆国南東部、太平洋諸島に分布する。	－	自然林、攪乱地、市街地に生育する。	観賞用に栽培される。日本でも流通している。	⑩海外:ISSG、⑫角野委員(削除)	JF、IPSW	

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目																原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散											
								生物	導入	競争	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入										
削除 (候補)	16	小笠原・南西諸島／未定着	ヤブコウジ	コウトウタチバナ (セイロンマンリョウ、ウミベマンリョウ)	<i>Ardisia elliptica</i>		Ⅳ	◎	◎	(◎)	—	—	◎	(◎)	○	(◎)	○	—	—	○	—	インド南部～中国南部原産。合衆国南東部、カリブ海、インド洋諸島、ハワイ諸島等に分布。	—	6m、常緑低木	熱帯の泥湿海岸地域の海浜や湿潤な森林等に生育する。	観賞用に利用される。日本でも流通している。		①要注意、②W100:IUCN、⑦各県:沖縄、海外:ISSG、⑫角野委員(削除)	Ylist、JF、外来生物、IPSW		
削除 (候補)	17	小笠原・南西諸島／未定着	ガガイモ	オオバナアサガオ (インドゴムカズラ)	<i>Cryptostegia grandiflora</i>		Ⅳ	◎	◎	(◎)	—	—	◎	(◎)	○	(◎)	○	—	—	○	—	マダガスカル原産とされるが原産地ははっきりしない。北アメリカ、南アメリカに分布。オーストラリアで侵略的。	—	30m、常緑のつる性木本	農耕地、自然林、植林、氾濫原、河岸、攪乱地、低木林、水路、湿地、海浜に生育する。	観賞用としてフェンスに這わせたり、生垣として用いる。日本でも栽培される。沖縄の石垣島では支柱を立てて庭木としている。刈りこめば低木状になる。茎からは良質の繊維がとれる。乳液からはゴムが採取される。第二次大戦のときにはゴム原料植物として栽培された。	強健種で比較的栽培は簡単。潮風に強いので海浜地の植栽に適する。多湿地を嫌い、排水の良い砂質土壌を好む。繁殖は実生(取り播き)、取木。散布による分布拡大・拡散もないので、掲載には当たらないと考える(日本造園学会)。	⑩海外:ISSG、⑫角野委員(削除)	有用、熱帯花木、園芸事典、JF、IPSW、日本造園学会		
削除 (候補)	18	小笠原・南西諸島／未定着	ノウゼンカズラ	ネコノツメ(トラノツメ、マクファディエナ)	<i>Macfadyena unguis-cati</i>		Ⅳ	◎	◎	(◎)	—	—	◎	(◎)	○	(◎)	○	—	—	○	—	メキシコ、ガテマラ、ブラジル、アルゼンチン原産。直樹以外の全ての大陸で見られる。	—	20m、常緑の本性的のつる植物	自然林、植林、草原、攪乱地、市街地に生育する。若い時は耐陰性がある。	海外では観賞用に栽培されるほか、薬用にも利用される。苗木入手容易。近年トラノツメという名で市場に出ている。近年広く栽培されている。	<i>Macfadyena</i> = <i>Dolichandra</i> 。案外に耐寒性がある。軽い霜では害をうけず、日本の中部以西の暖地ならばよく戸外で生育し、つるは長く伸びる。挿し木で簡単に発根し、よく生長する。	⑩海外:ISSG、⑫角野委員(削除)	熱帯花木、園芸事典、IPSW、JF		
掲載 (変更)	19	小笠原・南西諸島 ※未定着を削除	キツネノマゴ	ベンガルヤハズカズラ(ウリハローレルカズラ)	<i>Thunbergia grandiflora</i>		Ⅳ			◎	×	—	◎	○	○	◎	○	—	—	○	—	インド～東南アジア原産。オーストラリア、熱帯アメリカ、セイシャル諸島、ハワイ諸島に分布。	2018年に屋久島での確認が報告された。	10m、つる性の常緑樹	自然林、植林地、攪乱地、川岸、海岸に生育する。日本では、関東南部、横浜などで近年、路地での越冬がみられる。	観賞用に栽培される。苗木入手容易。斜面、フェンスや網目格子を簡単に覆ってしまう。海外では、薬用にされる。	寒さで傷みやすいが、回復も早い。小笠原では近縁種の <i>T. laurifolia</i> が野生化している。海外では牧草地にも侵入している。2018年に屋久島で記録がある。	⑦各県:沖縄、⑩海外:ISSG	有用、熱帯花木、園芸事典、JF、IPSW、Ylist、田中・田中2018		
掲載 (変更)	20	小笠原・南西諸島 ※未定着を削除	リュウゼツラン	アツバチトセラン(サンセベリア、サンセベリア・トリファッシュアーク、チトセラン、トラノオラン)	<i>Sansevieria trifasciata</i>		Ⅳ	◎	◎	(◎)	—	—	◎	(◎)	○	(○)	○	—	—	○	—	熱帯西アフリカ原産。太平洋諸島、オーストラリア、インド洋初頭、アジア、合衆国などに導入された。	小笠原で野生化している。	1m、多肉の多年草	耐陰性がある。越冬には12～15℃必要だが、乾燥に強いので、水を控えれば0℃近い低温にも耐える。	観葉鉢物として栽培され、多くの園芸品種がある。株分けで繁殖する。アフリカでは葉から繊維を採取。	小笠原で野生化しているのは近縁種のチトセラン <i>S. nilotica</i> とされていた。	⑦各県:沖縄、⑩海外:ISSG、⑪その他:環境省関東	有用、園芸事典、JF、PIER、GCW、写真図鑑		
削除 (候補)	21	小笠原・南西諸島／未定着	イネ	ダイサンチク(タイサンチク、キンシチク)	<i>Bambusa vulgaris</i>		Ⅳ	◎	◎	(◎)	—	—	◎	(◎)	○	(◎)	○	—	—	○	—	東南アジアから太平洋諸島まで広く分布。	東海地方以西でまれに栽培される。	20m、高木	自然林、植林地、川岸、攪乱地、水路に生育する。湿気のある低地を好むが、気候や土壌条件への耐性は広い。土手、道端など開けた場所に生育する。	庭園観賞、製紙・建築用、防風用に栽培される。若いだけのこは食用にされる。	近縁種のホウライチク <i>B. multiplex</i> インドシナ原産説と九州、琉球野生説がある。西表島では逸出が報告されている。	⑦各県:沖縄、⑩海外:ISSG	有用、園芸事典、Ylist、JF、木本Ⅱ、梶田ら2022		
削除 (候補)	22	小笠原・南西諸島／未定着	ヤシ	シマケンチャヤシ(ユスラヤシモドキ)	<i>Archontophoenix cunninghamiana</i>		Ⅳ	◎	◎	(◎)	×	—	◎	(◎)	○	(◎)	○	—	—	○	—	オーストラリア島北部原産。ブラジル、ニュージーランド等に分布。	露地栽培の北限は九州南端とされる。	30m、常緑高木	海岸、自然林、河岸、攪乱地、市街地に生育する。ある程度の耐寒性と耐陰性がある。	優美な姿を觀賞するために栽植される。カリフォルニアや地中海沿岸の温暖な地域では野外で栽培できる。		⑩海外:ISSG、⑫角野委員(削除)	有用、園芸事典、JF		
掲載 (変更)	41	分布拡大期～まん延期	スイレン	園芸スイレン	<i>Nymphaea</i> cv.	ため池、湖沼	Ⅳ			◎	○	—	◎	◎	◎	◎	○	—	(◎)	◎	—	約40種類が熱帯から温帯にかけて広く分布。	明治時代末期から園芸植物として渡来した。北海道、本州、四国、九州、沖縄で栽培され、野生化。各地で生育しているが、外来種との認識がうすく、逸出と植栽の境界が明確でない。	浮葉性の多年草	湖沼、水路、人里近くのため池などに多い。	観賞用に交配された多数の園芸品種が観賞用に池や温室で利用される。熱帯性と耐寒性に大きく分けられる。日本のヒツジグサと交配した品種も多い。種子や根茎はデンプンを多く含み、食用にされることもある。根茎は薬用にも利用される。	愛知県は在来種のヒツジグサを除くスイレン属。名古屋市では耐寒性の外来スイレンの駆除が行われている。神奈川県相模原市の池でも駆除。海外では、ニオイヒツジグサ <i>N. odorata</i> が侵略的とされている(ISSG)。ヨーロッパで <i>N. alba</i> が、スリナムで <i>N. Amazonum</i> が、ローデシアで <i>N. caerulea</i> が、パキスタンで <i>N. lotus</i> が、インドで <i>N. sterlata</i> が重要な雑草とされる。その他にも様々な種類が雑草化している。大きな葉で遮光し、水生動植物に影響を与え、オニバス、ジュンサイ等と競合し、駆逐する懸念がある。	⑤対策:H20<4、⑥専門家:水生31、⑦各県:福島・愛知条例・徳島・香川・高知・福岡・宮崎・沖縄、⑩海外:ISSG、⑫角野委員(カテゴリ変更)	有用、便覧、園芸事典、GAWW、GCW、JF、 http://www.bdnagoy.jp/introduction/activities/water_lily.html、角野		
掲載 (変更)	43	分布拡大期～まん延期	アブラナ	オランダガラシ(クレソン、ウォータークレス、ミズガラシ、オランダミズガラシ)→米倉委員よりオランダガラシ属へ変更の意見	<i>Nasturtium officinale</i>	池沼や溪流	Ⅳ、Ⅴ			◎	×	—	◎	◎	◎	◎	○	—	◎	◎	—	ヨーロッパ、中央アジア原産。南北アメリカ、オセアニアなど、熱帯国を含む、ほぼ世界中に分布。	1870年頃渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で栽培、逸出。	0.6m、抽水性の多年草	水田、河川、溝、水路、流れのある沼、湧水のある池、湖畔、山間の溪流などの水辺から水中に群生する。日当たりの良いところを好む。低水温で生育しやすい。	食用に広く利用される。薬用に利用されるほか、水質浄化を目的に導入されることがある。種子を薬用にする。	農業用排水路の水流を妨げる雑草等としても駆除される。世界的に温帯地域の水路で問題になる雑草である。茎部から容易にひげ根を発生して繁殖する。種子の発芽力は4～5年持続する。	①要注意、③村中:B、④FAO:9、⑤対策:H23:1、⑥専門家:水生37、⑦各県:北海道・福島・埼玉・千葉・長野・愛知・和歌山・徳島・香川・愛媛条例・高知・福岡・宮崎、⑧河川:40.75.86、⑫米倉委員(変更)	世雑Ⅱ、便覧、帰化植物、外来生物、園芸事典		
掲載 (変更)	56	分布拡大期～まん延期	クマツヅラ	シチヘンゲ(ランタナ、ヨウオウカ)→米倉委員よりランタナ類へ変更の意見	<i>Lantana camara</i>	暖地の海岸	Ⅱ、Ⅳ			◎	×	○	◎	◎	◎	◎	◎	—	(◎)	○	—	北アメリカ南部～熱帯アメリカ原産。ヨーロッパ南部、アフリカ、アジア、オーストララシア、北アメリカ、南アメリカ、大西洋諸島、インド洋諸島、太平洋諸島に分布。	江戸時代末期(1865年)に園芸植物として渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原で逸出。	5m、半つる性の常緑低木	市街地、道端、牧草地、畑地、荒地、海岸、河原、低木林、自然林、二次林、原野、湿地等に生育する。日当たりを好むが、多少の日陰でも生育する。	コバノランタナ <i>L. montevidensis</i> との交雑等により、草丈や花の色が多様な園芸品種や、棘がない種類や結実しない種類が数多く作出されている。暖帯域では路地で、温帯域では温室の鉢植えや夏の花壇に使われている。果実は黒熟し、少し甘味があるので、海外では食用や香辛料に利用する。ブラジルでは葉を茶の増量材にした。中国では薬用に用いる。	土壌中に窒素を蓄積する。自家受粉も行い、淡紅色系統のものが果実を良くつける。果実は鳥によって運ばれる。繁殖は挿木または実生による。棘がある。	①要注意、②W100:IUCN、③村中:C、④FAO:8、⑥専門家:海洋島28、⑦各県:愛知・愛媛条例・和歌山・徳島・香川・高知・福岡・宮崎・小笠原・奄美・沖縄、⑩海外:ISSG、⑫米倉委員(変更)	世雑Ⅰ、便覧、熱帯花木、外来生物、有用、JF、IPSW		

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入								
削除 (候補)	67	定着初期 ／限定分布	オモダカ	ヒロハオモダカ (ジャイアントサジタリア)	<i>Sagittaria platyphylla</i>	河川や湿地	Ⅳ			(◎)	㊟	—	◎	◎	◎	○	○	—	(◎)	○	◎	北アメリカ原産。 オーストラリア、 ニュージーランド、 太平洋諸島やヨーロッパに分布。	1998年大阪府牧方市で初めて採集。	1.5m、抽水性の多年草	河川、水路、湖沼、湿地に生育する。豊かな環境を好む。	海外では観賞用に栽培される。日本でも近縁種のナガバオモダカ <i>S. weatherbiana</i> として、またはジャイアントサジタリアの名前で利用されている可能性がある。	別学名 <i>S. graminea</i> var. <i>platyphylla</i> 。水路の水の流れを悪くし、洪水の危険性を増加させる。	⑩海外・ISSG、⑫角野委員(削除)	志賀隆、大阪市立自然史博物館淀川水系調査グループ植物班、水草研究会誌、Vol.93, pp.13～22(2010)、水草Ⅱ、角野
掲載 (変更)	73	分布拡大期～まん延期	トチカガミ	外来セキショウモ (オオセキショウモ (ジャイアントハリスネリア)、セイウセキショウモ(パリスネリア・スピリス)、コウガイセキショウモ) → <u>角野委員より、オーストラリアセキショウモ(オオセキショウモ)とコウガイセキショウモの2種に独立すべきとの意見。</u>	<i>Vallisneria gigantea</i> 、 <i>V. spiralis</i> 、 <i>V. x pseudorosulata</i>	池沼や溪流	Ⅱ、Ⅳ			◎	—	—	◎	◎	◎	○	◎	—	(○)	○	—	オオセキショウモはバブアニューギニア～オーストラリア原産?。セイヨウセキショウモは北アメリカ原産?世界中に分布。	オオセキショウモ:栃木県佐野市、栃木・群馬県境の才川、滋賀県草津市、熊本県白水村に定着。 コウガイセキショウモ:千葉県松戸市、愛知・岐阜県境の木曾三川下流域、岐阜県大垣市、三重県鈴鹿市、大阪府淀川水系、福岡県直方市、小竹町、柳川市、佐賀県佐賀市、鹿児島県東串良町での定着が確認。	0.1～1.6m、沈水性の多年生	湖沼、河川など日当たりの良い水域に生育する。	オオセキショウモはアクアリウムプランツとして販売されているが、 <u>別種の可能性もある。</u> セイヨウセキショウモとして販売されているものには、 <u>セイヨウセキショウモとコウガイセキショウモが含まれる。</u>	定着場所では両種とも一面の優占群落を形成し、侵略的な状況を呈している。長良川では少なくとも5km以上にわたって大繁茂し、冬季には大量の切れ葉が川岸に漂着する。千葉県松戸市坂川と佐賀県佐賀市での聞き取りによれば、「繁茂して侵略的」との認識がなされている。常緑であるため、落葉性の在来種(セキショウモやコウガイモ)よりも繁殖力が高いと思われる。両分類群ともに国内での有性繁殖は確認されていない。 在来種はセキショウモ <i>V. nsatans</i> とコウガイモ <i>V. denseserrulata</i> 。セイヨウセキショウモ <i>V. spiralis</i> とパリスネリア・ナナ <i>V. nana</i> はISSGに掲載。	⑦各県:福岡、⑩海外・ISSG、⑪その他:藤井委員、⑫角野委員	水草Ⅲ、藤井・牧、未発表、Wasekuraら、2016、角野
掲載 (変更)	86	小笠原・南西諸島	モクマオウ	トクサバモクマオウ (トキワギョリュウ) → <u>米倉委員よりモクマオウ類への変更の意見</u>	<i>Casuarina equisetifolia</i>		Ⅱ、Ⅳ			◎	×	◎	—	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	—	オーストラリア原産。アフリカ南部、北アメリカ南東部、カリブ海で侵略的。	琉球には明治初期、小笠原には1879(明治12)年に導入され、野生化。	20m、常緑高木	日当たりの良い砂地を好む。種子の生産量、発芽率が高い上に、放線菌と共生して痩せ地でも良く育つ。耐塩性や耐乾性がある。	砂防林、防風林、肥料木、街路樹、公園樹として植栽される。材は薪炭用に、樹皮のタンニンが薬用に、海外では染料に利用される。日本では、地上戦で焦土となった沖縄の緑化樹として積極的に取り入れられた。緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、利用されている。	落ち葉が林床に蓄積し、アレロパシー作用もある。奄美地域では、アジサン類の営巣地であるサンゴ砂にはびこり、野鳥の営巣地が破壊されたとされる。	⑤対策:H20<4、⑥専門家:海洋島29、⑦各県:小笠原・鹿児島・奄美・沖縄、⑩海外・ISSG、⑫米倉委員(変更)	便覧、写真図鑑、IPSW、有用、林野庁
削除 (候補)	113	分布拡大期～まん延期	メギ	ヒイラギナンテン	<i>Berberis japonica</i>	都市近郊の森林林床	Ⅳ			◎	—	—	◎	○	◎	◎	—	—	—	○	—	中国～ヒマラヤ原産。イギリスやオーストラリアで雑草化している。	1681～1688年に庭園木として渡来。本州の一部で逸出。	3m、常緑低木	半日陰地で良く育ち、土質を選ばない。都市近郊の二次林に逸出している。	本属では日本でも最も広く植栽されている。庭園や公園に普通に植栽される。	別学名は <i>Mahonia japonica</i> 。近縁種のセイヨウヒイラギナンテン <i>M. aquifolium</i> はヨーロッパで侵略的な植物とされている。鳥が種子を散布することから、いくつかの県で影響が危惧されている。実生、挿木などで繁殖。	⑥専門家:雑木11、⑧河川:3,9,15、⑫角野委員(削除)	便覧、有用、木本Ⅰ、樹木、園芸事典、JF、GCW、IPSW、日本造園学会、服部(1996)
削除 (候補)	123	分布拡大期～まん延期	トウダイグサ	ナンキンハゼ	<i>Triadica sebifera</i>	照葉樹林	Ⅳ			◎	×	○	◎	◎	◎	◎	○	○	—	○	—	中国大陸の中南部の暖帯から亜熱帯原産。台湾にも広く野生化。アフリカ、アジア、ヨーロッパ、北アメリカに分布。	園芸植物として江戸時代に渡来。関東～琉球で逸出。	15m、落葉(熱帯では常緑)高木	自然林、植林地、草原、攪乱地、湿地に生育する。土壌を選ばないが、排水の良い肥沃土壌で生長がきわめて早く、陽光を好む。関東以南の暖地に適する。様々な環境への耐性がある。	庭木、公園樹、街路樹として植栽される。盆栽にも利用される。種子の油脂は有毒だが、ろうそく、せっけん、薬用等に利用される。	繁殖は実生で行う。別学名 <i>Sapium sebiferum</i> 。急速に分解する葉はタンニンを生産し、土壌中の窒素やリンも増加する。奈良公園春日山原始林で問題。シカが食べないため、今後増加する可能性が高い。	③村中:C、⑥専門家:草原23・雑木10、⑦各県:埼玉・兵庫・和歌山・高知・福岡、⑧河川:23,50,64、⑩海外・ISSG、⑫角野委員(削除)	便覧、樹木、有用、Ylist、園芸事典、JF、奥川・中坪(2009)、MAESAKOら(2007)、服部
削除 (候補)	124	定着初期 ／限定分布	ツリフネソウ	アカボシツリフネ (アカボシツリフネソウ、ケーブツリフネ、ケーブツリフネソウ)	<i>Impatiens capensis</i>	湿地	Ⅳ			◎	—	—	○	◎	◎	○	—	—	—	—	—	北アメリカ原産。ヨーロッパでは、古くから逸出、野生化。	1992年渡来。千葉県野田市利根運河に大群落がある。	0.3～2m、一年草	湿生植物へに影響が懸念される。フランス、イギリスなど、ヨーロッパでは古くから逸出、野生化している。	本種の利用に関する情報は得られなかったが、花が美しいので栽培される可能性はある。	在来種のキツリフネ <i>I. noli-tangere</i> によく似ているため、誤同定されている可能性がある。わが国には、ニリンツリフネ <i>I. biflora</i> の帰化の記録があるが、この学名は本種のシノニムとされており、検討を要する。辻・日置(2017)は本種には侵略性が無いと評価している。	⑦各県:千葉	便覧、写真図鑑、帰化植物、GCW、辻・日置2017
掲載 (変更)	144	分布拡大期～まん延期	キク	コウリンタンポポ (エフデタンポポ) → <u>米倉委員よりコウリンタンポポ類へ変更の意見</u>	<i>Hieracium aurantiacum</i>	寒冷地や亜高山帯の自然草原	Ⅱ、Ⅳ			◎	—	—	◎	◎	◎	○	◎	—	(○)	○	—	ヨーロッパ原産。西アジア、北アメリカにかけて広く分布。	明治中期に渡来、戦後定着した。北海道～九州で逸出。マット状に群生する。北海道にはサハリンから入った。	0.5m、多年草	原産地では高山に生育する。山地の草地、畑地、牧草地、芝地、路傍、荒地などに生育する。乾いたところに多く、土壌pHの低い所にも生育する。雪や霜に耐えられる。酸性の強くない肥沃地では、他の雑草との競争力が弱い傾向にある。	大雪山国立公園では山麓、林道に侵入。特別保護地区への侵入が懸念される。 <u>磐梯山の高山のガレ場やお花畑、登山道沿いで繁茂し、パンダイクワガタなどの高山植物と競合している。目立つオレンジ色の花で景勝地の夏の景観を大きく変えた。継続的な駆除が行われている。</u>	⑦各県:北海道・福島、⑧河川:5,6,6、⑩海外:ISSG、⑫米倉委員(変更)	世雄Ⅰ、便覧、帰化植物、環境省、園芸事典、有用、JF、福島	
掲載 (変更)	145	定着初期 ／限定分布	キク	キバナコウリンタンポポ(ノハラタンポポ、キバナノコリンタンポポ)→ <u>米倉委員よりコウリンタンポポ類へ変更の意見</u>	<i>Hieracium caespitosum</i>	寒冷地や亜高山帯の自然草原	Ⅱ、Ⅳ			◎	—	—	◎	◎	◎	○	—	—	—	○	◎	ヨーロッパ原産。北アメリカなどに分布。	1955年に確認され、北海道、岩手、福島、兵庫に分布。北海道では各地に広がっている。	0.5m、多年草	草地、路傍、休耕地に生育する。	JFコードに掲載されているキバナコウリンタンポポが本種かどうか不明である。	芝生などの種子に混入して拡大。根際からしばしば匍枝を出す。別学名YListは <i>Pilosella caespitosa</i> 、その他に <i>H. pratense</i> 、 <i>P. floribunda</i>	⑦各県:北海道、⑧河川:1,2,3、⑪その他、⑫米倉委員(変更)	便覧、写真図鑑、JF、帰化植物、YList
掲載 (変更)	146	分布拡大期～まん延期	キク	フランスギク	<i>Leucanthemum vulgare</i>	亜高山帯	Ⅱ、Ⅳ			◎	—	—	◎	◎	◎	○	◎	—	(◎)	○	◎	ヨーロッパ原産。アジア、南北アメリカ等、温帯に多く、一部は熱帯にも広がる。	江戸時代末期に渡来。北海道、本州、四国、九州で逸出。特に北海道に多い。	0.8m、多年草	畑地、牧草地、路傍、空地に野生化する。近年は高山にまで侵入しつつある。	園芸植物として渡来、庭園で栽培される。	別学名 <i>Chrysanthemum leucanthemum</i> 。マーガレット(モクシユンギク) <i>Argyranthemum frutescens</i> と混同されている場合あり。種子と地下茎で繁殖する。芝生種子等に混入もある。種子の生産量は多く、寿命が39年に及ぶとの報告がある。各地の国立公園で駆除が行われている。	③村中:B、⑤対策:H20,6、H23:1、⑥専門家:草原33、⑦各県:北海道条例・福島・高知、⑧河川:20,53,67、⑫角野委員(カテゴリー変更)	便覧、写真図鑑、帰化植物、JF、Ylist、世雄Ⅰ

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入								
削除 (候補)	153	分布拡大期～まん延期	イネ	ハルガヤ(スイートバーナルグラス、 <u>パニラグラス</u>)	<i>Anthoxanthum odoratum</i>	里草地や山地草原	Ⅳ			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	○	(○)	◎	－	ヨーロッパ～シベリア原産。アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等、温帯に分布。オーストラリア、南アメリカ等で侵略的。	明治初年に入り、北海道～九州、四国に分布。寒冷地が多い。	0.7m、多年草	牧草地、放牧地、路傍、荒地、草地、河原、森林に生育し、山地にまでみられる。日当たりの良い所を好み、土壌の種類を選ばない。耐寒性、耐旱性があり、春先の生育が早い。	牧草として導入されたが、生産性は低くあまり重要視されていない。緑化に利用される。甘みや香りを利用したハーブとして流通、利用されている。	甘いクマリンの芳香がする。世界的には牧草地の雑草とされる。	③村中：B、④FAO：7、⑥専門家：草原40、⑦各県：青森・福島・広島・徳島・高知、⑧河川：28.62.70、⑫角野委員(削除)	世雑Ⅲ、便覧、帰化植物、花粉、牧草、IPSW、JF
掲載 (変更)	162	小笠原・南西諸島	ムクロジ	コフウセンカズラ→ <u>米倉委員よりフウセンカズラ(広義)へ変更の意見</u>	<i>Cardiospermum halicacabum</i> var. <i>microcarpum</i>		Ⅱ、Ⅳ			◎	×	－	○	◎	◎	○	◎	－	(○)	○	－	汎熱帯原産。基本種のフウセンカズラ <i>C. halicacabum</i> は北アメリカ南部原産。	渡来年代不明だが1961年には記載がある。鹿児島、琉球で逸出。	2m以上、つる性の一年～多年草	沖縄県(特に大東諸島、宮古諸島)では、かなり蔓延している。基本種のフウセンカズラは日当たりと排水の良い場所なら土質は特に選ばない。	基本種のフウセンカズラ <i>C. halicacabum</i> は流通、販売され、觀賞用に栽培される。フウセンカズラは、海外では食用や薬用にされる。	果実が径1.5cmたらずの変種として基本種のフウセンカズラからは区別されている。フウセンカズラは海外では環境雑草等とされている。性質は強く、栽培が容易、病気、害虫はほとんどいない。	⑦各県：沖縄、⑪その他：横田委員、⑫米倉委員(変更)	便覧、写真図鑑、JF、有用、園芸事典、横田委員、GCW
掲載 (変更)	167	小笠原・南西諸島	キツネノマゴ	ヤナギバレイソウ(ムラサキセイハナビ、ルエリア・フリトリアナ、リュエリア、メキシコベチューニア)→ <u>米倉委員よりルイランウ属へ変更意見</u>	<i>Ruellia brittoniana</i>	湿地や河原	Ⅳ			◎	×	－	○	◎	◎	○	○	－	－	○	－	メキシコ原産。アメリカ合衆国のフロリダ州やハワイで侵略的。	1974年頃、アメリカ軍により非意図的に沖縄本島に持ち込まれた。沖縄、九州、四国の南部で雑草化。	1m、多年草	河原や空地等の礫地や道路の舗装の隙間に生育する。湛水状態でも育つなど適応性幅が広い。日当たりの良い場所です周年開花する。	觀賞用の栽培が増え、様々な花の色の園芸品種が流通、栽培される。	南西諸島の水湿地で繁茂。別学名 <i>R. tweediana</i> 、 <i>R. caerulea</i> 、 <i>R. simplex</i> <i>R. malacosperma</i> 。萌芽は10～20個の扁平な種子を有する。現在は <i>Ruellia simplex</i> <i>C.Wright</i> が本種の学名として受け入れられている。	⑦各県：徳島・高知・奄美・沖縄、⑫米倉委員(変更)	便覧、写真図鑑、藤井委員、JF、園芸図鑑、GCW、USDA、WFO
削除 (候補)	172	小笠原・南西諸島	イネ	シマスズメノヒエ(ダリスグラス、 <u>パスパルムグラス</u>)	<i>Paspalum dilatatum</i>	里草地	Ⅳ			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	－	○	◎	◎	南アメリカ原産。北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア、太平洋諸島に分布。	1915年小笠原で確認。本州、四国、九州、琉球、小笠原諸島に分布。	1.5m、多年草	畑地、牧草地、芝生地、路傍、溝、荒地、鉄道、川岸、土手に生育する。湿った肥沃地を好む。耐干性、耐暑性があり、酸性土壌に適応する。	暖地型牧草で、乾草および放牧用に適する。日本で育成された品種もある。本州では第二次大戦後に緑化用に使われ、急速に増加した。	種子と根茎で繁殖。アレロパシー作用がある。種子は風、雨、動物、人間による。九州では果樹園や道端の雑草として問題になっている。	③村中：C、⑦各県：広島・高知・福岡・奄美・沖縄、⑧河川：47.78.88、⑨三省：国道、⑫角野委員(削除)	粗飼料、便覧、写真図鑑、世雑Ⅲ、帰化植物
削除 (候補)	173	小笠原・南西諸島	イネ	タチスズメノヒエ(ペイジーグラス)	<i>Paspalum urvillei</i>		Ⅳ、Ⅴ			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	－	◎	◎	－	南アメリカ原産、北アメリカ、アフリカ、オーストラリア、アジアなどに分布。	1958年福岡で確認、本州(関東以西)、四国、九州、琉球。	1.5m、多年草	畑地、芝地、路傍、荒地、海岸埋立地、果樹園に生育する。日当たりの良い湿った土壌を好む。発芽適温は30～35℃。	本種の利用状況に関する情報は得られなかった。	鹿児島、沖縄のサトウキビ畑の強毒雑草となっている。種子と根茎で繁殖。種子の形成量が多く、水、動物、人間により伝播。種子は休眠性を持つ。アレロパシー作用もある。株は冬枯れしないので、大株になると伐去が難しくなる。繁殖力が極めて強い。宮崎県では近年、椎葉村などの奥地にも広がっている。	③村中：C、⑦各県：広島・徳島・高知・福岡・宮崎・奄美・沖縄、⑧河川：19.42.64、⑩海外：ISSG、⑫角野委員(削除)	世雑Ⅲ、雑管、便覧、写真図鑑、帰化植物
掲載 (変更)	187	分布拡大期～まん延期	イネ	ナギナタガヤ(ネズミノシッポ)→ <u>米倉委員よりナギナタガヤ属へ変更の意見</u>	<i>Vulpia myuros</i>	海岸砂地、草原	Ⅳ			◎	×	○	◎	◎	◎	○	○	－	○	◎	－	ヨーロッパ～西アジア原産。アフリカ、アジア、オーストラリア、南北アメリカ、大西洋諸島、太平洋諸島などの温帯～暖帯に分布。	明治初年に入り、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	0.6m、一年草	畑地、牧草地、庭、路傍、荒地などに生育する。日当たりの良い砂質土壌を好む。海辺の砂地、乾いた草地に多い。	密な群落を作って他の雑草を抑えるため、近年は果樹園や道端の雑草防除法の一つとして、改良品種を含むナギナタガヤが、流通、販売され、栽培されている。	これまでナギナタガヤはそれほど大きな問題にはなっていないが、大量に種子が撒かれることにより、周辺への影響が心配される。温帯域の畑地、牧草地の雑草となっている。	③村中：B、⑦各県：福島・高知・奄美、⑧河川：52.91.98、⑫米倉委員(変更)	世雑Ⅲ、勝山委員、便覧、写真図鑑、IPSW

(2) 現行リスト作成時の未掲載種の再検討(順不動)

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入								
再検討(候補)	1	分布拡大期～まん延期	マメ	シロツメクサ(ホワイクローパー)	Trifolium repens	高山				◎	—	○	◎	◎	◎	○	○	—	○	◎	—	ユーラシア原産、ヨーロッパ、北アメリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等、亜寒帯～温帯に分布し、一部は熱帯に広がる。オーストラリアで侵略的となっている。	日本には江戸時代初期に入り、後に輸入されたものが広がった。北海道～琉球に分布。	茎の長さ1m、多年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育し、高地まで生える。耐寒性が強く、土壌の種類を選ばない。	・(独)家畜改良センターの業務(飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・配布 家畜改良センター法第10(三))として、増殖を行っている。 ・北海道のブルーリストでA2(本道の生態系等へ大きな影響を及ぼしており、防除対策の必要性について検討する外来種)に分類されている。 ・白山国立公園や、中部山岳国立公園の立山黒部アルペンルートなどで駆除の対象となっている。 ・種子と匍匐茎により繁殖する。種子は風、雨、動物、人間に分散される。家畜が食べても種子は生きている。畑地、休耕田、果樹園、芝生の雑草とされる。 オーストラリアでは、ダニの宿主となつて在来植物に大きな損害を与えた。	③村中：B、④FAO：7、⑤対策：H20.6、⑥専門家：草原47、⑦各県：北海道・京都、⑧河川：78,118,121、⑨三省：環・農・林・国都・国道、⑩海外：ISSG、⑫環境省沖縄畜産、地方公共団体、小山委員	世雑Ⅱ、便覧、雑管、農林水産省・林野庁、IPSW	
再検討	2	分布拡大期～まん延期	ナス	ワルナスビ	Solanum carolinens					◎	—	—	◎	◎	◎	○	—	○	◎	—	◎	北アメリカ原産、温帯～熱帯	明治末期に渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	0.8m、多年草	畑地、樹園地、牧草地、荒地、道端、河原、市街地などに生育。乾燥や日陰に強い。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	茎、葉の脈上、花序などに鋭い刺がある。ソラニンなどの有毒物質を含む。牧草に混入して分布拡大。繁殖力が非常に強く、侵入されると駆除が難しい。生態系被害も心配されるが、棘による人体被害が起きている。公園で遊んでいる子どもが被害を受けることがある。	①要注意、③村中：B、④FAO：7、⑤対策：H20.4、H23.2、⑦各県：埼玉・愛知・京都・鳥取・滋賀条、⑧河川：27.41.56、⑫地方公共団体	世雑Ⅰ、雑管、写真図鑑、牧草
再検討	3	分布拡大期～まん延期	ゴマノハグサ	ビロードモウズイカ(ニワタバコ)	Verbascum thapsus					◎	×	—	◎	◎	◎	○	○	—	(○)	○	—	ヨーロッパ原産、アジア、オーストラリア、南北アメリカなど寒帯～温帯	明治初年に、観賞用に導入され、北海道、本州、四国、九州、琉球で分布。	2m、一年草	畑地、牧草地、放牧地、路傍、荒地、鉄道の路肩などに生育する。日当たりの良い砂質土壌に多い。土質を選ばずよく育ち、こぼれ種子で増えていく。	近縁種との雑種を含む園芸品種が観賞用に栽培される。薬用にする。	種子の生産量が多く、100年以上生存した事例がある。御殿場市で車道の往来で繁殖域の拡大につながっている状況にある。	⑥専門家：河原40、⑧河川：21.34.44、⑩海外：ISSG、⑫地方公共団体	世雑Ⅰ、便覧、帰化植物、JF、園芸事典、有用

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等	
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永續		人体	経済産業	利用	付着混入									
再検討		4	分布拡大期～まん延期	キク	ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>					◎	－	－	◎	◎	◎	○	－	○	○	－	－	北アメリカ原産、温帯～熱帯に分布	1920年頃に渡来。北海道～九州、琉球に分布。	1.0m、多年草	畑地、水田畦畔、牧草地、道端、空地、芝地などいたる所にみられる強害草。	種子や苗が、通販サイトで流通している。	種子ならびに根茎による繁殖力が強力。古くから侵入しており、一定の影響はあるが、利用による分布拡大の可能性はなく、重要地域への影響は特に大きくないとの判断。昔から身近にあるため外来種ということが一般には知られていないように感じる。公園内にも多く生息しているが、草刈り作業でも刈り取られない。競合する在来種の生息域の消失につながると思われる。	①要注意、②W100:日本、③村中:C、⑤対策:H20<4、⑥専門家:草原45、⑦各県:青森・埼玉・愛知・京都・滋賀・愛媛条例・福岡・鹿児島、⑧河川:50.74.75、⑫地方公共団体	世雑Ⅰ、雑管、花粉、便覧、写真図鑑、外来生物
再検討(候補)		5	小笠原・南西諸島	イネ	シンクリノイガ	<i>Cenchrus echinatus</i>	隆起サンゴ礁で形成された石灰岩地	Ⅱ			◎	×	－	◎	○	◎	○	◎	－	(◎)	－	◎	熱帯アメリカ原産、北アメリカ、南ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オーストラリア、太平洋諸島など熱帯～亜熱帯に分布。	関東以西に分布。琉球、小笠原では古くから帰化。	0.8m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育。日当たりのよい肥沃地を好み、乾いた土壌～湿った土壌に適応。隆起サンゴ礁で形成された石灰岩地に生育。	牛の採食圧に耐える良質の牧草とされる。	小笠原では返還時(1968年)頃の勢力はないものの、動物や人に付着して広がり、群落を拡大する。侵入年代が古く、勢力が衰えてきたこと、利用による分布拡大の可能性が低いことから掲載対象外とした。石灰岩地の海岸植生の保全を目的に、南島等で駆除作業を実施。管理計画にも記載あり。	⑤対策:H20<4、⑦各県:小笠原、⑪その他:環境省関東、⑫地方公共団体	世雑Ⅲ、便覧、写真図鑑、帰化植物、便覧
再検討(候補)		6	分布拡大期～まん延期	イネ	ナガハグサ(ケンタッキーブルーグラス)	<i>Poa pratensis</i>					○	－	－	○	◎	◎	○	○	○	◎	－	ヨーロッパからアジアが原産、北半球の温帯に広く分布する。	牧草として明治初年に渡来。北海道～九州に分布する。	0.8m、多年草	日当たりの良い山野に生える。湿地を好むが、比較的乾燥した土地にも適応し、耐寒性は強く、踏みつけに強いが、夏に弱い。	牧草や緑化植物として利用される。地下茎を伸ばして繁殖するので、土砂流出防止のため裸地や斜面に植えられる。	深い山中のものは自生品との説もあるため、リスト作成時には、「国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種」として検討した。	③村中:B、④FAO:8、⑧河川:38.65.81、⑨三省:農・国都・国道、⑩海外:ISSG、⑫江川委員、小山委員	野生植物2、イネ、雑管、粗飼料、花粉、便覧、有用	
再検討(候補)		7	未定着	キク	キダチカコウアザミ(仮)(アゲラティナ・アデノフォラ)	<i>Ageratina adenophora</i>		V	◎	○	(◎)	×	－	◎	(◎)	○	○	＝	＝	(○)	(○)	◎	メキシコ原産、オーストラリア、北アメリカ、南アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジアに分布。	－	多年草	鉄道や道端などの荒地、農耕地、牧草地、開けた森林、林縁、川岸、湿った岩の多い海岸。	海外では19世紀には観賞用に利用されていた。日本での栽培は未確認。	種子は機械や設備、土壌、人間の衣服などへの付着・混入や、家畜、風、水で移動する。農作物や牧草地に悪影響を及ぼす可能性がある。家畜には有毒である。アレロパシー作用を持つ。	⑩海外:ISSG、⑫西田委員	Ylist、EPPO
再検討		8	定着初期／限定分布	ウコギ	セイヨウキツタ(イングリッシュ・アイビー、アイビー)	<i>Hedera helix</i>					(◎)			(◎)	(◎)	○	(◎)			○		地中海沿岸～西アジア原産。	渡来年代不明。千葉、大阪、香川で逸出。	長さ30m、常緑のつる植物。	耐寒性が強く、零下でも生育。林内で繁茂	観賞用植物として渡来。日本で栽培されるのは80品種以上。		⑩海外:ISSG、⑫地方公共団体	便覧、有用、観葉	
再検討(候補)		9	小笠原・南西諸島	ツククサ	ムラサキオモト(シンラン)	<i>Tradescantia spathacea</i>		Ⅱ			◎	×	－	○	○	○	◎	◎	－	－	○	－	メキシコ、西インド諸島原産	1816年渡来、琉球、小笠原諸島で逸出。	0.2m、常緑多年草	高温多湿を好む。小笠原諸島の一部で高密度で林床を覆っている。	園芸植物として渡来。実生が株分けで増やす。近年、矮性でよく分枝する品種が導入された。熱帯・亜熱帯ではグラウンドカバーとして用い	沖縄では遺棄されて野生化するものが増えてきた。	⑩海外:ISSG、⑪その他:環境省関東	便覧、園芸、園芸事典、写真図鑑
再検討(候補)		10	小笠原・南西諸島	ツルムラサキ	アカザカズラ(マデイカズラ、ツルアカザ、オカワカズ)	<i>Anredera cordifolia</i>		Ⅱ			◎	×	－	×	◎	○	○	◎	－	－	○	－	南アメリカ原産、北アメリカ、ヨーロッパ、北アフリカ、東南アジア、ニュージーランドなどに分布。	明治末期に渡来。関東～九州、琉球の一部に分布。奄美大島内の数カ所で確認。	長さ3m、つる性で多肉性の多年草	日当たりよい場所を好み、他の植物や人工物に絡まりながら生長する。砂浜、森林、水辺など様々な環境に適応する。	観賞用のほか、食用にされることもある。	多肉質の葉で樹冠や地表を覆い、つるの重さで樹木が折れることもある。地中や地上に塊茎をつけ、茎の断片から生育する。地上の塊茎は、数年間は発芽能力を持つ。日本では結実しない。	⑦各県:奄美・沖縄、⑩海外:ISSG、⑫環境省沖縄奄美	便覧、写真図鑑、帰化植物、POWO、CABI、IPSW
再検討		11	分布拡大期～まん延期	カタバミ	イモカタバミ(フシネハナカタバミ)	<i>Oxalis articulata</i>					○			○	○	◎	○			○		南アメリカ(パラグアイ)原産。	1967年渡来。本州～九州で帰化。	0.3m、多年草	庭の空き地や道端、果樹園、草地、樹林	球根類として流通、販売される。		⑦各県:高知、⑧河川:4.25.43、⑪その他:外来種取扱事業者	便覧、帰化植物、JF	
再検討		12	分布拡大期～まん延期	ユリ	ハタケニラ	<i>Nothoscordum gracile</i>					○	×	－	○	◎	◎	○			○		南アメリカ原産、北アメリカ、ヨーロッパに分布。	1890年頃、既に渡来。北海道～九州に帰化。	0.5m、多年草	畑、庭、路傍、放牧地などに生育。土壌の種類は選ばないが、日当たりの良い所を好む。	観賞用に導入されたい。	誤食のおそれ。	⑦各県:高知、⑧河川:0.2.10、⑪その他:外来種取扱事業者	世雑Ⅲ、便覧、写真図鑑、園芸事典	
再検討		13	分布拡大期～まん延期	ユリ	オオアマナ(オーニソガラム・ウンベラツム、オーニソガラム・ウンベラタム)	<i>Ornithogalum umbellatum</i>					○	×	－	○	○	○	○			○		地中海沿岸原産	1965年以前に渡来。北海道、本州(栃木、千葉、神奈川、長野)で逸出帰化。	0.3m、多年草	草地、樹林に侵入。耐寒性がある。	園芸植物として渡来。球根類として、流通、利用される。ヨーロッパでは昔鱈茎を食用にした。	神奈川県箱根で駆除。小球で増殖し易い。繁殖力が強く在来種との競合。	⑤対策:H23:1、⑧河川:0.1.1、⑪その他:外来種取扱事業者、⑫地方公共団体	便覧、写真図鑑、園芸事典、JF	
再検討(候補)		14	分布拡大期～まん延期	ヒユ	ノゲイトウ	<i>Celosia argentea</i>		Ⅱ			○	×	－	◎	◎	◎	○	○	－	(○)	○	－	熱帯アメリカ原産、熱帯、亜熱帯を中心に温帯の一部にまで広がる	江戸時代末期に渡来。関東～琉球、小笠原に分布。	1.0m、一年草	畑地、樹園地、荒地、牧草地、路傍に生育。温暖で日当たりが良い肥沃地を好む。日陰地では生育が悪い。排水が良ければ土壌の種類を選ばない。	草花類として流通、利用される。	栽培種が母島で拡散し、環境省職員が駆除。	③村中:C、⑦各県:高知、⑧河川:14.31.36、⑪その他:環境省関東	世雑Ⅱ、便覧、写真図鑑、帰化植物、JF
再検討(候補)		15	分布拡大期～まん延期	ケシ	ナガミヒナゲシ	<i>Papaver dubium</i>					○	－	－	◎	◎	◎	○	－	○	○	○	ヨーロッパ原産、温帯	ムギ栽培に伴って広がった。日本では1960年に確認、北海道～琉球に分布。	0.6m、一年草	畑地、牧草地、樹園地、路傍、荒地、河原に生育。山地近くまで生える。温暖で日当たりのよい肥沃地を好むが、乾いた土地に多い傾向がある	種子やドライフラワーが、通販サイトで流通している。	環境省には被害の情報は無いが、一般の方からの問合せや、住民から相談を受けた市町村からの問合せも多い。冬作物の畑地雑草化が顕著。2つの亜種subsp. <i>lecoan</i> とssp. <i>dubium</i> がある。哺乳類に有毒だが毒性は弱い。	⑤対策:H23:1、⑦各県:群馬・埼玉・広島、徳島、⑧河川:6.24.46、⑪その他:外来種取扱事業者、⑫環境省東北・中国四国、地方公共団体、小山委員	世雑Ⅱ、便覧、帰化植物、吉川2009、Cooper&Johnson、1884	
再検討		16	分布拡大期～まん延期	アブラナ	ミチタネツケバナ	<i>Cardamine hirsuta</i>					○	○		○	◎	◎	○		○			ユーラシア原産、温帯に分布し、一部は熱帯まで広がる	1988年渡来、本州に帰化。	0.3m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、芝地、荒地などに生育。平地から山地までみられる。日当たりの良いところか日陰地まで、各種土壌に適応。	交雑	⑦各県:栃木・広島、⑧河川:2.2.17、⑫地方公共団体	世雑Ⅱ、便覧、帰化植物		
再検討		17	分布拡大期～まん延期	マメ	タチオランダゲンゲ	<i>Trifolium hybridum</i>	立山				○		○	○	○	◎	○	○		(○)	○	北ヨーロッパ原産、世界の温帯に広く帰化。	立山で他の種類とともに対策の対象となっている、明治年間に牧草として導入されたが、利用は少ない、全国で散発的に野生化。	0.5m、多年草	畑地、牧草地、芝地などに生育。日当たりがよく、冷涼で湿潤な地域に適する。	土壌中の種子の寿命は長い。立山では重点除去対象エリアが発生している。	⑤対策:H20<4、⑫地方公共団体	世雑Ⅱ、便覧		

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等	
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永續		人体	経済産業	利用	付着混入									
再検討	18	分布拡大期～まん延期	カタバミ	ムラサキカタバミ	<i>Oxalis corymbosa</i>						○			○	○	◎	○	○		○		南アメリカ原産、熱帯～亜熱帯に分布し暖帯の一部にも広がる	江戸時代末期に渡来。北海道～琉球、小笠原で逸出、帰化。	0.3m、多年草	おもに南方地域(沖縄等)の農耕地の雑草。本州では栽培もされるが、イモカタバミの方が多。畑地、樹園地、庭、芝地、路傍、荒地などに生育。日当たりのよい肥沃地を好む。	観賞用植物として渡来。	温帯では鱗茎で繁殖し結実しない。自然生態系への影響は特に大きくない? 果樹園などでの雑草化や、草地・樹林への侵入がみられる。生育環境が類似する在来の近縁種と競合する。	①要注意、埼玉・⑦各県: 愛知・京都・高知・奄美、⑧河川: 42,78,79、⑪その他: 外来種取扱事業者、⑫地方公共団体	世雑Ⅱ、便覧、帰化植物、雑管	
再検討	19	分布拡大期～まん延期	オオバコ	タチオオバコ(ツボミオオバコ)	<i>Plantago virginica</i>					○			◎	◎	◎	○		(○)				北アメリカ原産	1913年に渡来。北海道～九州、琉球に帰化。	0.5m、一～二年草	牧草地、芝地、路傍、荒地などに生育する。	生育環境が類似する在来の近縁種と競合する。	⑦各県: 高知、⑧河川: 17,46,62、⑫地方公共団体	世雑Ⅰ、便覧		
再検討	20	分布拡大期～まん延期	アヤメ	ニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium rosulatum</i>	立山				○	×		◎	◎	◎	○	○	(○)	○			北アメリカ東部原産、温帯	日本には明治20年ごろに入る。北海道～琉球で帰化。	0.2m、多年草	畑地、田畑の周辺、芝生、草地、路傍などに生育。日当たりのよい所を好み、土壌の種類は選ばない。	草花類として流通、利用される。	立山では重点除去対象エリアが発生している。	③村中: C、⑧河川: 54,83,87、⑫地方公共団体	世雑Ⅲ、便覧、帰化植物、JF	
再検討	21	分布拡大期～まん延期	イネ	ハイコスカグサ(クリーピングベントグラス)	<i>Agrostis stolonifera</i>					○			○	◎	◎	○		(○)	◎			ヨーロッパ原産、温帯	明治年代に入り、北海道、本州に分布する。	0.3m、多年草	畑地、牧草地、休耕地、川岸、荒地などに生育。日当たりの良い所～やや日陰地まで適応し、肥沃地を好む。	芝草として利用。	繁殖力が高く在来種との競合	⑧河川: 12,13,21、⑨三省: 国都、⑫地方公共団体	世雑Ⅲ	
再検討(候補)	22	小笠原・南西諸島／未定着	マメ	メスキート(キャベ)	<i>Prosopis juliflora</i>				○	○	(◎)	×	○	◎	(◎)	○	(◎)	○	○		—	熱帯アメリカ、西インド諸島に分布	—	8m、亜高木、刺がある	海岸地方から高原の乾燥地に生育する。	日本での栽培は未確認。海外では、豆果の果肉は甘く、食用にされる。蜜源植物にもなる。		⑩海外: ISSG、⑫江川委員	有用、ブラジル	
再検討(候補)	23	小笠原・南西諸島	ヒルガオ	ハスノハヒルガオ(キバナハスノハヒルガオ)	<i>Merremia peltata</i>		Ⅱ、Ⅳ			◎	×	—	×	○	○	(○)	○	—	—	○		熱帯アジア～太平洋諸島原産。	西表島で2022年に確認された。	30m、つる性	乾燥した低地や中山間地の自然群落に侵入し、森林や林縁、開けた丘陵地や道端、牧草地、植林地に生育する。	日本でも栽培可能。苗木入手容易。海外では、侵食防止の被覆植物に奨励されることがある。西表島では、森林植生への被害を確認。	⑩海外: ISSG、⑫環境省沖縄奄美	熱帯花木、Ylist、梶田ら(2022)		
再検討	24	小笠原・南西諸島	フトモモ	バンジロウ(グァバ)	<i>Psidium guajava</i>					(◎)	×		(◎)	(◎)	○	○	○			◎		熱帯アメリカ原産、熱帯～亜熱帯で広く栽培。	1935年以前に、渡来。沖縄、小笠原で逸出、帰化。	9m、常緑低木。	海外では、農耕地、自然林、河川敷、荒地、低木林に生育。	果樹として渡来。海外では、食用や庭園樹として、様々な品種が利用される。	⑦各県: 沖縄、⑩海外: ISSG、⑫地方公共団体	便覧、写真図鑑、園芸事典		
再検討(候補)	25	小笠原・南西諸島	リュウゼツラン	サイザル(サイザルアサ)	<i>Agave sisalana</i>		Ⅱ、Ⅳ			◎	×	—	○	○	○	○	○	—	—	○	—	メキシコ原産、熱帯～亜熱帯	渡来年代不明、小笠原で帰化。	葉の長さ2m	海外では海岸、砂漠、植林地、草地、低木林に生育する。	海外では、比較的乾燥した地域で葉から繊維をとるために栽培される。多肉植物として流通、栽培される。	場所によっては掲載種のアオノリュウゼツランと大差ない繁茂。	⑩海外: ISSG、⑪その他: 環境省関東	便覧、有用、園芸事典、JF	
再検討(候補)	26	定着初期／限定分布	セリ	イワミツバ(エゴボディウム、アエゴボディウム)	<i>Aegopodium podagraria</i>	温帯から冷温帯までの湿原や草原	Ⅱ、Ⅳ			◎	×	—	○	○	○	◎	○	—	—	○	—	ユーラシア原産、北アメリカやニュージーランドに分布。	明治時代に渡来、1959年頃に野生化が確認。北海道、神奈川、東京で帰化。	0.8m、多年草	溝端や湿地に生育。	観賞用、食用として渡来。斑入りの品種も販売され、グラウンドカバーとして利用される。	大群落を形成し、日陰にも強い。ため、他の自然植生に多大な影響を与える可能性がある。根が深く伸び、各地で雑草化する。	⑦各県: 北海道条例、⑧河川: 0,0.1	便覧、帰化植物、有用、写真図鑑、園芸事典、JF	
再検討(候補)	27	分布拡大期～まん延期	キク	メリケントキンソウ	<i>Soliva sessilis</i>	牧場	Ⅴ				○	×	—	◎	◎	○	○	—	○	○	—	◎	南アメリカ原産	和歌山に1930年渡来、関東～九州、四国で帰化。	5cm、一年草	日当たりのよい公園、ゴルフ場、グラウンドの地面を這うように生育。都市公園で急速に分布を拡大。		果実に棘があり触れると肌に刺さり、けがをする恐れがある。牧草地に混じった果実を家畜が食べて内臓を傷つける恐れがある。果実の棘が動物の毛に絡まるほか、靴底、車のタイヤに刺さるなどして分布を広げる。	⑦各県: 千葉・愛知・滋賀条例・兵庫・徳島・香川・高知・宮崎・鹿児島条例・奄美・沖縄、⑧河川: 0.4,5、⑪その他: 村上委員、⑫環境省沖縄奄美、地方公共団体、小山委員	便覧、帰化植物、写真図鑑
再検討(候補)	28	小笠原・南西諸島	ウリ	ヤサイカラスウリ(アサガオウリ)	<i>Coccinia grandis</i>	暖地の海岸林	Ⅱ、Ⅳ			◎	×	—	◎	◎	○	○	○	○	—	○	—	アフリカ、インド、東南アジア原産。オーストラリア、アメリカ大陸に帰化。	1978年にフィリピンから読谷村に導入され、2001年に帰化した。	一年草～多年草、つる植物	海岸林に生える。	東南アジアで広く栽培され、食用にされる。沖縄では家庭菜園などで栽培される。	2001年にうるま市で海岸林を覆いつくして繁茂しているのが見つかった。	⑦各県: 沖縄、⑩海外: ISSG	写真図鑑、POWO、有用、沖縄	
再検討(候補)	29	分布拡大期～まん延期	キク	ブタナ(タンポポモドキ)	<i>Hypochoeris radicata</i>	草原	Ⅱ、Ⅳ				◎	—	—	◎	◎	◎	○	◎	—	○	—	—	ヨーロッパ原産、温帯に多く、熱帯～亜熱帯にも分布	1933年渡来。北海道～九州、琉球に分布。	0.8m、多年草	草地、畑地、芝生、市街地に普通に発生し、寒地や山岳地帯で路肩を埋めることがある。耐寒性があり平地から高山地帯まで生える。北海道のサロベツ湿原では、希少植物の生育環境への侵入が確認され、その影響が危惧されている。	通販サイトで研究用の種子が販売される。	愛知県でも一部やや自然度の高い草地にも侵入している。裸地や芝地に真っ先に侵入し繁殖するが、周辺の草本群落の丈が高くなるとブタナは消えていくので、近年分布量は減少する傾向にある。ヒメサユリ、キキョウ、ヤマキソウなどの希少種が生える草原への逸出が確認されており、影響が危惧されている。国立公園までの距離が迫りつつある。	①要注意、③村中: B、④FAO: 6、⑤対策: H20・4、H23: 1⑦各県: 北海道・神奈川県・広島・愛知・愛媛条例、⑧河川: 31,64,79、⑩海外: ISSG、⑫地方公共団体、小山委員	世雑Ⅰ、便覧、写真図鑑、帰化植物、猿瀬ら2015
再検討(候補)	30	分布拡大期～まん延期	アカネ	メリケンムグラ	<i>Diodia virginiana</i>	河川敷、湿地	Ⅳ				◎	×	—	◎	◎	◎	○	—	—	—	◎	—	北アメリカ原産、アジアの温帯。	1953年渡来、本州(関東以西)、四国、九州。	一年草	水田の畦道、河原の湿地、草原に生育。マット状を呈する。	ダム湛水斜面緑化植物として利用。	九州の筑後川中流域の河岸の牧草地に多発生して問題。大量利用されることに懸念がある。福岡県の絶滅危惧ⅠB類のアゼオトギリと競合している。	③村中C、⑦各県: 滋賀・福岡・鹿児島、⑧河川: 7,19,27、⑪その他: バブコメ、外来種取扱事業者	便覧、写真図鑑、帰化植物、今村・内田(2011)、帰化植物ML、応用生態工学第4回勉強会、福岡RDB

(3) 現行リスト作成後の新規追加種(順不動)

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入								
新規(候補)	1	未定着	フトモモ	ユーカリ属	<i>Eucalyptus</i> spp.			○	○	○	×	—			○	◎		—	—	○	—	オーストラリア、タスマニア、ニュージーランド、ニュギニアに分布。	1875年ごろ渡来し、地域により集団栽植されるところが増えた。暖地では切葉用に栽培される。	常緑高木	オーストラリアでは海岸側に生育する。年雨量が250～1000mmの地域に生育する。	海外では、建築用、パルプ、燃料用、精油などに利用され、緑化樹、公園樹、街路樹として栽植される。日本では温帯性木本として流通、利用される。湿潤なため、造林用の利用はあまり成功していない。	早生樹として産業的植栽が議論されているが、在来種との競合、土壌侵食、葉から引火性の高いテルペンを放出し火災のリスクを高めることから、産業利用には配慮が必要。	⑫農水省、小山委員	JF、有用、園芸大辞典

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目													原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等		
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永續		人体	経済産業	利用	付着混入									
新規(候補)	2	定着初期／限定分布	ケシ	シラユキゲンシ(スノーボビー)	<i>Eomecon chionantha</i>	森林の林床	Ⅳ			◎	×	－	○	○	○	◎	○	－	－	○	－	中国東部原産。	青森県、群馬県、千葉県、神奈川県、愛知県、香川県に分布。	0.4m、多年草	山地の湿った場所を好む。林床に生える。	日本では山野草として流通する。	群馬県桐生市では杉林の林床に群生している。周辺地域にヒイラギソウやカッソソウの自生地があるため注意が必要。増殖は株分けや実生で行う。	⑦各県：香川・高知、⑫地方公共団体	写真図鑑、園芸事典、大森2010、便覧、JF	
新規	3	定着初期／限定分布	ケシ	ケシ(ソムニフェルム種)	<i>Papaver somniferum</i>	－				○	－	－	○	○	○	－	－	◎	(○)	－	○	東ヨーロッパ原産。全世界的に帰化。	鹿児島県に帰化。	0.5-1.5m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。山地近くまで生える。温暖で日当たりのよい肥沃地を好む。	本種の栽培は麻薬取締法で規制されている。海外では、医薬品、麻薬原料、食用等で栽培され、暖地では観賞用に栽培される。	アツミゲシとは共通点が多く、同一種または亜種に分類される。海外ではムギ類などの春期に生育する作物との競合による雑草害が報告されている。	⑦各県：鹿児島	帰化植物、POWO、世雑Ⅱ、有用、POWO	
新規	4	定着初期／限定分布	ベンケイソウ	コダカラベンケイ×キンチョウ(品種名：フシチョウ)	<i>Kalanchoe daigremontiana</i> × <i>K. tubiflora</i>					○	×		○	○	○	○				○	○	交配種。	高知県に帰化。	0.5m、多年草	浜地、岩石地、崖地、山地の裸地や路傍、林縁などに生える。	－	Ylist掲載なし。	⑦各県：高知		
新規	5	定着初期／限定分布	マメ	キバナツノクサネム(ツノクサネム)	<i>Sesbania cannabina</i>					○		○		○	○	○					○	○	オーストラリア原産。東南アジア地域、ガーナなどに帰化。	1986年鹿児島県と論島で確認。	3m、一年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。	1980年代から緑肥として用いられた。根を深くまで伸ばすため、土壌の改良や、難溶性リンの可給化によるリン吸収によりリン肥沃度の向上も期待される植物。本種の繊維をダンチー麻と呼び、アフリカやインドで利用される。	⑦各県：鹿児島	世雑Ⅱ、有用、鬼頭ら2019、POWO	
新規	6	定着初期／限定分布	マメ	アメリカツノクサネム	<i>Sesbania exaltata</i>					○		○		○	○	○			(◎)		○	○	北アメリカ原産、ヨーロッパ、中国、などに分布。	1953年に愛媛県で確認、本州(宮城県以西)～九州で散発的に分布。	2m、一年草、時に多年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。	緑肥として導入された。	海外ではダイズ、ワタ、イネなどの雑草となっている。シードバンクを形成する可能性がある。ネマトーダの宿主となる。	⑦各県：鹿児島	写真図鑑、世雑Ⅱ、POWO
新規	7	定着初期／限定分布	タデ	外来ツルソバ(仮称：ヒマラヤツルソバ)	－					○											○	－	2009年に香川県直島町、2019年に坂出市岩黒島で繁茂。	－	温暖な海岸、海浜などに生育する。	カバープランツとして導入されたものが逸出したもの。	⑦各県：香川			
新規	8	定着初期／限定分布	ナス	ナガエノセンナリホオズキ(フウリンホオズキ)	<i>Physalis acutifolia</i>					◎			◎	◎	◎				○		○	北アメリカ原産。朝鮮半島などに分布。	戦後まもなく渡来。本州(関東以西)～琉球に分布。	一年草	畑地、草地、路傍などに生える。	－		⑦各県：高知	帰化植物、POWO	
新規(候補)	9	定着初期／限定分布	アゼナ	マルバヒメアメリカアゼナ(ラージパールグラス)	<i>Micranthemum umbrosum</i>	湧水地、水辺	Ⅳ			◎	×	○	◎	◎	◎	○		－	－	○	－	北アメリカ原産	富山県、徳島県、鹿児島県に帰化。	抽水性の一年草	浅水域、湿地、水辺に生育する。	アクアリウムに使用されている。	富山県では湧水起源の用水路に他の外来種と主に繁殖し、原植生を改変し、在来種(絶滅危惧種を含む)を追いやっている。	⑦各県：鹿児島	水草Ⅱ、POWO、中田・川住2015、藤井ら2016	
新規(候補)	10	定着初期／限定分布	オオバコ	ジギタリス(キツネノテブクロ)	<i>Digitalis purpurea</i>	森林の林床	Ⅲ			◎	×	－	◎	○	○	○	－	◎	－	○	○	ヨーロッパ原産。アジア、アメリカ、南アフリカ、ヨーロッパに広く帰化。	1937年以前に渡来。北海道、本州、四国に帰化。	1.2m、二～多年草	路傍、法面、林道、荒地地に生育する。	欧米では花壇に植栽されることが多い。日本には江戸時代に渡来し、観賞用に栽培される。強心利尿薬になる。有効成分ジギトキシンを精製する。	和歌山県護国神社森林公園で確認され、県が駆除を行った。カリフォルニアでは、比較的湿った草地等に繁殖し、毒性や在来種との競合で問題視されている。播種後約5か月で開花する。	⑦各県：和歌山、徳島	世雑Ⅱ、有用、園芸事典、POWO、IPCW、便覧、自然毒のリスクプロファイル、	
新規	11	定着初期／限定分布	キク	ヤナギバヒメジョオン	<i>Erigeron pseudoannuus</i>					○			○	◎	◎	○					○	北アメリカ原産。	三重県、佐賀県、鹿児島県に帰化。	越年草または多年草	ヘラバヒメジョオンとヒメジョオンが混生する環境にしばしばみられる。	－	無融合生殖をする。ヒメジョオンとヘラバヒメジョオンの自然交雑種の一つとされる。	⑦各県：鹿児島	写真図鑑、帰化植物	
新規(候補)	12	定着初期／限定分布	オモダカ	ミズヒナゲシ(キバナトチカガミ、ミズウチワ、ウォーターボビー)	<i>Hydrocleys nymphoides</i>	温暖地の池沼や湿地	Ⅳ			◎	×	－	◎	◎	◎	◎	－	－	○	○	－	南アメリカ原産。北アメリカ、オーストラリア、フィジー、ニューカレドニア、ニュージーランドに分布。	昭和初期に導入された。兵庫県、高知県、宮崎県に分布。	浮葉性の多年草	池沼、河川、水路などに生育する。寒さに弱いので、南日本でのみ越冬可能。	ビオトープやアクアリウムで人気が高く、広く流通する。	茎の節から根や葉を出して増殖。種子はあまり作らない。多くの国や地域で侵略的とされる。特に水面を密に覆いつくすことによる沈水植物への影響や、溶存酸素量の低下が問題とされる。	⑦各県：高知	写真図鑑、USDA2021、POWO、水草Ⅲ、角野	
新規	13	定着初期／限定分布	コミカンソウ	チュウゴクアカガキ	<i>Bischofia polycarpa</i>					○			○	○	○	○			○	◎	○	中国原産。	高知県に帰化。	落葉高木	植栽地周辺。	街路樹として用いられる。	雌雄異株。液果を生産し、種子は鳥によって散布される。	⑦各県：高知	中岡ら2020	
新規	14	定着初期／限定分布	ユリズイセン	ユリズイセン(アロストロメリア)	<i>Alstroemeria pulchella</i>	暖地の森林の林床				○			○	◎	◎	◎					○	○	ブラジル原産。オーストラリア、北アメリカ、ニュージーランドに分布。	高知県、宮崎県、鹿児島県に帰化。	多年草	人家近くの路傍、畑地など。高知県では林床に繁茂し、在来の林床植物と競合・駆逐の危険性が報告されている。自生地ではナンキョクブナ林の林床や崩壊地などに生える。	日本では同属の園芸品種が栽培利用される。原産国では肥大した根のデンプンを利用する。	宮崎県は <i>Alstroemeria</i> sp.。世界的には <i>A. psittacina</i> が使われ、 <i>A. pulchellaha</i> (<i>A. aurea</i>)のシノニムとされる。地下茎で増えて、密生するため注意が必要。	⑦各県：高知・宮崎	有用、鹿児島、POWO、FNA、IPSW、JF
新規	15	定着初期／限定分布	ツククサ	アレチイボクサ	<i>Murdannia nudiflora</i>					○			○	◎	◎			◎			○	東南アジア原産。アメリカ大陸、アフリカ大陸に分布。	高知県、福岡県、鹿児島県に帰化。	一年草	川の土手、芝地、舗装された道路や駐車場 際の隙間などに生育する。	－		⑦各県：高知・鹿児島	福岡、中村2015、POWO	
新規	16	定着初期／限定分布	イネ	イトアゼガヤ類似種	－					○			◎	◎	◎						○	中国南部から熱帯アジア、アフリカ原産。	香川県に帰化。	一年草	日当たりのよい草地、畑地に生育する。	－	2019年9月に多度津町奥白方で一帯に数千株以上が群生している事例がある。飼料や厩肥としてに混入したと思われる。	⑦各県：香川	香川	
新規	17	定着初期／限定分布	シソ	セイヨウウツボグサ(セルフヒール)	<i>Prunella vulgaris</i> ssp. <i>vulgaris</i>	立山				○					○	○	○					ユーラシア大陸原産、北アメリカ、オーストラリア、ブラジルに分布。	1998年渡来、本州(千葉県、神奈川県、兵庫県)に分布。	0.4m、多年草		草花類として流通、利用される。	立山では重点除去対象エリアが発生している。	⑫地方公共団体	野生植物5、写真図鑑、便覧、JF	
新規	18	分布拡大期～まん延期	タデ	ソバカズラ	<i>Fallopia convolvulus</i>					○	－	－	◎	○	◎	○	－	－	(◎)	－	(◎)	ヨーロッパ原産、南北アメリカ、アフリカ、アジア、オーストラリアなどの寒帯～暖帯に分布する。	1910年に雑草化していた。北海道～琉球に分布する。北海道に多い。	1m、つる性一年草	市街地の路傍、畑地、樹園地、雑木林、牧草地、荒地、河川敷などに生育する。日当たりの良い肥沃地を好む。	種子のアミノ酸組成がソバに類似し、リジンを多く含むため、穀物類とともに混ぜて飼料にする。食用とするが有毒でもある。	根を深く張るため、乾燥や窒素が不足する土壌の影響を受けにくい。世界的は畑地雑草。種子が穀物と同等の大きさのため収穫時の混入が問題となる。種子生産量が多く、生存期間が長く、遠方まで鳥に運ばれる。	⑦各県：鹿児島	写真図鑑、帰化植物、世雑Ⅱ、POWO、CABI	
新規	19	分布拡大期～まん延期	ナデシコ	ノハラツメクサ	<i>Spargula arvensis</i> var. <i>arvensis</i>	二次草原				○	×	－	○	◎	○	○	－	－	○	－	○	ヨーロッパ原産。アメリカ大陸、アフリカ大陸、アジア地域など世界的に帰化。	1906年に北海道で採集。北海道～琉球に分布。	0.6m、一年草	路傍、荒地、草地、畑地に生育する。	北ヨーロッパでは古い時代から種子を食用としてきた。	本種は非常に成長が早く、1年に二回発生することもある。種子多産、埋土種子寿命が長い強力な農業雑草である。世界中33か国以上で、様々な作物の農地に侵入し問題となっている	⑦各県：高知	写真図鑑、便覧、世雑Ⅱ、POWO、TWWW、野生植物4	
新規	20	分布拡大期～まん延期	ヒユ	ホナガイヌビユ	<i>Amaranthus viridis</i>					○			◎	◎	◎				○	○	○	南アメリカ原産。世界中の熱帯や温帯で広く帰化。	1926年に山口県で確認、北海道～琉球に分布。	1m、一年草	畑地、牧草地、道端、荒地などに生育する。	通販サイトで研究用の種子が販売される。	種子寿命は5年以上。	⑦各県：高知	帰化植物、世雑Ⅱ、POWO、WFO	

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目																原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散											
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入										
新規	21	分布拡大期～まん延期	ヒユ	ウラジロアカザ	<i>Oxybasis glauca</i>					○			◎	◎	◎				○	○	○		ヨーロッパからアジアの温帯・冷温帯原産。アフリカ大陸、アメリカ大陸、朝鮮半島などに帰化。	1891年に確認され、北海道～九州に分布。	0.4m、一年草	湖畔、海浜、埋め立て地、河川などに生育する。	—		⑦各県：福岡	帰化植物、写真図鑑、世雑Ⅱ、POWO	
新規	22	分布拡大期～まん延期	マメ	クスダマツメクサ	<i>Trifolium campestre</i>					○		○	◎	◎	○					○	○		西アジア～北アフリカ原産。アメリカ、オーストラリア、アジアに分布。	1943年に横浜市で確認、北海道～琉球に分布。	0.5m、一年草	河川敷、海岸、市街地、空地、畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。	草花類として流通、利用される。		⑦各県：鹿児島	帰化植物、写真図鑑、世雑Ⅱ、POWO、JF	
新規	23	分布拡大期～まん延期	マメ	ベニバナツメクサ(クリムソクローバー)	<i>Trifolium incarnatum</i>					○		○	◎	◎	○			○	○	○		ヨーロッパ、北アフリカ、西アジア原産。アメリカ大陸、オーストラリア、中国などに分布。	明治初年に移入され、北海道～九州に分布。	0.8cm、一年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。	観賞用、牧草、緑化用に導入された。	数年前に一度種子を散布した水路際に生育しつづけ、他市町で農道や水路際等に散布されたものが、当町内の近隣に農道等が無い舗装路際に生育するため、繁殖力が強く在来種の阻害になると考えられる。	⑦各県：鹿児島、⑫地方公共団体	帰化植物、写真図鑑、POWO		
新規	24	分布拡大期～まん延期	マメ	ケツルアズキ	<i>Vigna mungo</i>					○	○	○	○	○	○	—	—	—	○	○		インド原産。東南アジア地域、アフリカ大陸、北米の一部地域などに帰化。	1965年頃に渡来、本州、九州、琉球で逸出帰化。	一年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。	ケツルアズキは、主として南アジアにおいて挽割りにしてダールとして食べられている。また、ブラックマッペともいわれ、もやしにする。	リョクトウに近いとされる。インド原産とされるが、野生系統は知られていない。日本在来のササゲ属の希少種と分布が被るため、交雑の危険性がある。	⑦各県：鹿児島	便覧、有用、POWO		
新規	25	分布拡大期～まん延期	マメ	ツルアズキ(タケアズキ)	<i>Vigna umbellata</i>					○	○	○		○	◎	○				○	○		南アジア、東南アジア原産。北アメリカ、アフリカ大陸、オーストラリアなどに分布。	渡来年代不明。本州、四国、九州で逸出帰化。	一年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。	中国、ラオス、ミャンマーなどで、現在でも比較的良好に栽培される。日本でも以前はバカアズキなどと呼ばれ、食用栽培されたが、近年はほとんど栽培されない。	日本在来のササゲ属の希少種と分布が被っているため、交雑の危険性がある。	⑦各県：鹿児島	便覧、有用、POWO、便覧	
新規	26	分布拡大期～まん延期	マメ	ホソバヤハズエンドウ	<i>Vicia sativa</i> subsp. <i>nigra</i> var. <i>minor</i>					○	○	○	○	○	◎	○				○	○		ヨーロッパからユーラシア大陸一帯にかけて広く分布する。世界中の大陸に帰化。	本州から琉球に広く分布する。	一年草	道端や野原などの日当たりのよい場所に生える。	—	ヤハズエンドウの葉が細い変種。ヤハズエンドウは在来種との見解もある。日本在来のササゲ属の希少種と分布が被るため、交雑の危険性がある。	⑦各県：鹿児島	帰化植物、POWO	
新規	27	分布拡大期～まん延期	カタバミ	ベニカタバミ	<i>Oxalis brasiliensis</i>					○			○	○	◎	○		(◎)	○	○		南アメリカ原産。	1924年に渡来、本州、四国、九州に分布。	多年草	庭、畑地、樹園地、空地、路傍などに生育する。	園芸植物として栽培される。		⑦各県：高知	帰化植物、有用		
新規	28	分布拡大期～まん延期	ウリ	オオスズメウリ	<i>Thladiantha dubia</i>					○			○	○	◎	○				○	○		中国、朝鮮原産。北アメリカ、ヨーロッパ、ミャンマーなどに分布。	1969年に札幌市で採集。北海道、本州(福島、群馬、長野)、九州(鹿児島)に分布。	2m、つる性多年草	草地に生える。	薬用植物として栽培される。	雌雄異株の植物で、日本では雄株のみが知られる。	⑦各県：鹿児島	帰化植物、POWO	
新規	29	分布拡大期～まん延期	キョウチクトウ	フウセントウワタ	<i>Gomphocarpus physocarpus</i>					○			○	○	○	◎		○		○	○		南アメリカ原産。南アメリカ、インド、中国、オーストラリア、ヨーロッパ南部、北アフリカなどに分布。	高知県、鹿児島県に帰化。	2m、低木	人家近くの路傍、畑地などに生える。	風船状の大きな果実を観賞用にする。アフリカでは、本種の綿毛を枕のクッションにする。	毒性あり。	⑦各県：高知	有用、POWO、WFO	
新規	30	分布拡大期～まん延期	ナス	ホソバフウリンホオズキ	<i>Physalis angulata</i> var. <i>lanceifolia</i>					◎			◎	◎	◎			○		○		北アメリカ原産。63か国以上の世界中の熱帯から温帯に分布。	まれに帰化している。	一年草	畑地、草地、路傍、水辺など。肥沃な土壌を好む。多少の日隠は耐えられる。	いくつかの国で民間療法に利用される。本種からPhysalinという薬効成分が得られる。	種子生産能力が非常に高く、一個体が3万粒もの種子を生産することもある。	⑦各県：高知	帰化植物、POWO、WWND		
新規	31	分布拡大期～まん延期	ナス	ヒメセンナリホオズキ	<i>Physalis pubescens</i>					◎			◎	◎	◎			○		○		北アメリカ原産。ヨーロッパ、アフリカ大陸沿岸部、インド、中国、オーストラリアなどに分布。	センナリホオズキ(ヒロハフウリンホオズキ) <i>P. angulata</i> と混同されてきた。	一年草	畑地、樹園地、牧草地、芝地、路傍などいたるところに生育する。やや湿ったところを好む。	近縁種のシヨクヨウホオズキは、日本で栽培され、利用される。	海外の熱帯から亜熱帯地域ではゴムやサトウキビなどのプランテーションで問題となっている。	⑦各県：高知	帰化植物、写真図鑑、世雑Ⅱ、POWO		
新規	32	分布拡大期～まん延期	ナス	トマトダマシ	<i>Solanum rostratum</i>					○			○	○	○			○		○		北アメリカ原産。ヨーロッパ、オーストラリア、アフリカ、アジアに広く分布。	1955年に静岡県御殿場市で見いだされた。関東地方以西で散発的に分布。	0.8m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍などいたるところに生育する。	1895年から数年間小石川植物園で栽培されていた。	土壌環境に対する適応性が大きいとされる。	⑦各県：滋賀	写真図鑑、帰化植物、世雑Ⅰ、POWO		
新規	33	分布拡大期～まん延期	キク	ヌマツルギク(アクメラレペンス)	<i>Acmella oppositifolia</i> var. <i>repens</i>					◎	×	—	◎	◎	○	○		—	○	○	○		北アメリカ原産。	1975年に福岡市岡辺で見つかった。本州(千葉県、神奈川県)、九州(福岡県)に帰化。	0.6cm、多年草	河川、水路、水田の畦などに見られる。	アクメラレペンスの名前で、水草として流通、利用される。	茎断片による栄養繁殖が盛んで、草刈りなどの畦畔管理で切断された茎が、水路から分散して分布を拡大する。別学名 <i>Acmella repens</i> 。	⑦各県：福岡	写真図鑑、帰化植物、Ylist	
新規	34	分布拡大期～まん延期	キク	コシロノセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>minor</i>	草原				◎			◎	◎	◎			○		○		アメリカ大陸原産。アフリカ、アジア、ヨーロッパに分布。	江戸時代に渡来し、第二次世界大戦後に急に広がった。本州中部以西に分布。	0.3ー1.5m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、芝地、道端、都会の荒地、草原・草地などに群生する。	ビデンスなどの総称で観賞用に流通しているものがある。	コセンダングサ同様の雑草害を及ぼす。	⑦各県：高知	写真図鑑、世雑Ⅰ、POWO、TWWW、IPSW		
新規	35	分布拡大期～まん延期	キク	コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>pilosa</i>	草原				◎			◎	◎	◎			○	○	○		アメリカ大陸原産。アフリカ、アジア、ヨーロッパに分布。	江戸時代に渡来し、本州中部以西に分布。	.5m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、芝地、道端、都会の荒地、草原・草地などに群生する。	ビデンスなどの総称で観賞用に流通しているものがある。舌状花にピンク色が入る個体などはまれに栽培される。	コセンダングサ var. <i>pilosa</i> とコシロノセンダングサ var. <i>minor</i> は世界では同種 <i>B. pilosa</i> とされる。様々な作物に雑草害を及ぼす。1個体が1年に生産する種子数は3000-6000個とされ、哺乳類や人々の服に付着して遠距離まで散布される。種子の寿命はある程度長く、野焼きや焼き畑などの火災後いち早く発芽する。	⑦各県：滋賀・高知・愛媛条例	写真図鑑、POWO、世雑Ⅰ、園芸事典、IPSW、TWWW		
新規	36	分布拡大期～まん延期	キク	ヘラバヒメジョオン	<i>Erigeron strigosus</i>					○			○	◎	◎	○					○		北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアなどに分布。	日本各地に帰化。	1m、越年草または多年草	比較的乾いた丘陵や河岸の土手などに生える。	—	無融合生殖をする。ヒメジョオンよりもやせた乾いた土地を好む傾向がある。	⑦各県：鹿児島	写真図鑑、帰化植物、世雑Ⅱ、POWO	
新規	37	分布拡大期～まん延期	キク	トゲチシャ(アレチチシャ)	<i>Lactuca serriola</i>	レタス畑近く				○	(◎)		○	◎	◎			○	○		○		ヨーロッパ、アフリカ北部原産。アメリカ、アフリカ南部、オーストラリア、アジアに分布。	1949年に北海道で採集され、北海道～九州に分布。	1.5m、一～二年草	市街地や草地に多く、農耕地にはあまり侵入しない。	植物体をサソリや蛇の咬傷に用いる国がある。不眠症に効く薬草として用いられる。	トゲによる人体や家畜への被害が危惧される。農耕地に侵入した場合は、穀物畑で問題となる。また、日本にも在来種の <i>Lactuca</i> 属植物が分布しており、交雑が危惧される。	⑦各県：滋賀条例	写真図鑑、世雑Ⅰ、Uwimana、D'Andrea、POWO、Kaufman	

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目																原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散											
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永續		人体	経済産業	利用	付着混入										
新規	38	分布拡大期～まん延期	キク	イガトキンソウ(シマトキンソウ、タカサゴトキンソウ)	<i>Soliva anthemifolia</i>					○			◎	◎	◎					○	南アメリカ原産。北アメリカ、マダガスカル、インド、中国、ベトナム、オーストラリアなどに分布。	1910年頃に長崎で採集され、紀伊半島から四国、九州、琉球にかけて分布。	0.1m、一年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生える。	—		⑦各県:鹿児島	写真図鑑、帰化植物、POWO			
新規	39	分布拡大期～まん延期	ツユクサ	カロライナツユクサ	<i>Commelina caroliniana</i>					○			○	◎	◎				○	○	インド原産。北アメリカ、ブラジル、マレーシア、フィリピン、インドネシアなどに帰化。	2010～2012年にかけて大分県、熊本県、佐賀県、高知県、岡山県、愛知県などで確認された。	一年草	畑地、水田、畦地、河川、水路などに生育する。	—	大分県では、大豆の生育を妨げる被害が確認され、実際に収量や品質が低下している。本種は在来のシマツユクサと酷似する。	⑦各県:香川・高知	写真図鑑、香川、高知、大分、POWO、WFO			
新規	40	分布拡大期～まん延期	シュウカイドウ	シュウカイドウ	<i>Begonia grandis</i>					○	×	—	○	○	○	◎		—	—	○	—	中国南部～東南アジア原産。	1620年頃に渡来、関東地方以西に分布。	0.8m、多年草	湿った日陰。	観賞用に栽培され、暖かい地方では人家の周辺の湿った樹林内などに野生化。	抽出根拠の奄美ではベゴニア <i>Begonia</i> spp.として掲載。ISSGには近縁種のシキザキベゴニア <i>B. cucullata</i> が掲載。	⑦各県:奄美	帰化植物、ISSG、福島		
新規	41	分布拡大期～まん延期	シソ	コショウハッカ(セイヨウハッカ、ペパーミント)	<i>Mentha piperita</i>					○	—	—	○	○	○	○		—	—	○	—	ヨーロッパ原産。	明治年間に導入、1933年頃に野生化、ほぼ全国的に分布。	0.8m、多年草	湖沿岸、湿地などで繁茂する。	本格的にハッカの生産に利用されるには至らず、香辛料やハーブとして栽培される。	福島県では、会津の盆地から山地。特に裏磐梯で顕著で、五色沼湖沿岸周辺で継続的な駆除が行われている。	⑦各県:福島	帰化植物、便覧、写真図鑑		
新規	42	分布拡大期～まん延期	スミレ	アメリカスミレサイシン(ピオラ・ソロリア、ウィオラ・ソロリア)	<i>Viola sororia</i>					○		—		○	○	○		—	—	○		北アメリカ原産	1870年以降に渡来、北海道、本州、四国に分布。	多年草	草地、樹林	園芸植物として導入され、花色変種が多い。草花類として流通、利用される。	繁殖力が強く強健であるため、日本各地で逸出している。	⑪その他:外来種取扱事業者	写真図鑑、便覧、JF、園芸大辞典		
新規	43	分布拡大期～まん延期	アヤメ	シャガ	<i>Iris japonica</i>					○		—			○	○		—	—	○		中国、ミャンマーに分布。	本州～九州に分布。古く中国から渡来して野生化したとする説がある。	0.7m、多年草	半日陰のやや乾燥地を好み、生垣の下草などに利用される。人里近くに多く、林下に群生する。	草花類として流通、利用される。	繁殖力が高く在来種との競合	⑫地方公共団体	便覧、野生植物1、JF、園芸事典		
新規	44	分布拡大期～まん延期	ヒガンバナ	スイセン(ニホンズイセン)	<i>Narcissus tazetta</i> var. <i>chinensis</i>					○		—			○	○		—	—	○		地中海沿岸～アジア中部、中国原産。	古くに中国から海流または人出により渡来し、野生状態になったとされる。本州(関東以西)、九州に分布。	0.4m、多年草	海岸	球根類として流通、利用される。	繁殖力が高く在来種との競合	⑫地方公共団体	便覧、野生植物1、JF、園芸事典		
新規	45	分布拡大期～まん延期	ユリ	ルリムスカリ	<i>Muscari botryoides</i>					○					○	○		—	—	○		ヨーロッパ中部～トランス・コーカサス原産	園芸植物として1930年代に渡来、北海道、本州(千葉、東京、神奈川)で逸出。			球根類として流通、利用される。近縁種のアルメニアクム <i>M. armeniacum</i> も広く利用される。	繁殖力が高く在来種との競合	⑫地方公共団体	便覧、JF、園芸事典		
新規	46	分布拡大期～まん延期	タデ	アレチエゾノギンギシ	<i>Rumex × abortivus</i>						○															交雑、アレチギンギシ×エゾノギンギシの雑種 <i>R. conglomeratus</i> x <i>R. obtusifolius</i>	⑫地方公共団体	Ylist			
新規	47	分布拡大期～まん延期	バラ	エゾノミツモトソウ	<i>Potentilla norvegica</i>	立山												○				ユーラシア大陸原産、北アメリカに分布。	南千島、北海道、本州、四国に分布。	0.8m、一年草または短命な多年草	沿海地や荒地	立山では重点除去対象エリアが発生している。	⑫地方公共団体	野生植物3、便覧、写真図鑑			
新規	48	小笠原・南西諸島	マメ	ナンバンアカバナアズキ	<i>Macroptilium lathyroides</i>					○		○	○	○	○	○		—	(○)	—	○	熱帯アメリカ原産。アフリカ大陸、アジア地域、オーストラリアなどの熱帯から温帯に広く帰化。	1967年に記録あり、鹿児島県と沖縄県に分布。	1.5m、一年草、時に二年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。	特定の地域では食用とする。	海外では大豆や綿などに雑草害を及ぼしている。	⑦各県:鹿児島	写真図鑑、世雑Ⅱ、POWO		
新規	49	小笠原・南西諸島	サボテン	ドラゴンフルーツ(ピタヤ)	<i>Selenicereus undatus</i>	暖地の砂浜・海岸				○			○	◎	◎	○		○		○		北アメリカ、中央アメリカ原産。南アメリカ、南アフリカ、東南アジアなどに分布。	沖縄県に帰化。	15m、つる性木本	日当たりのよい場所を好み、海岸沿いや人家周辺に帰化している。	世界中で栽培される有用植物。果実は食用となる。	日本においても栽培されている。沖縄県では、希少植物の生育する崖地に定着している。	⑦各県:沖縄	Flora of china、POWO、有用、沖縄		
新規	50	小笠原・南西諸島	ベンケイソウ	キンチョウ	<i>Kalanchoe delagoensis</i>					○	×		◎	◎	◎	○	○			○		マダガスカル原産。アメリカ、アフリカ、ヨーロッパ、アジア、オーストラリアなどに分布。	渡来年代不明、静岡県伊豆半島、高知県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、小笠原諸島に分布。	0.5m、多年草	浜地、岩石地、崖地、山地の裸地や路傍、林縁などに生育する。	園芸植物として栽培される。	葉に不定芽をつける。伊豆須崎では人家から離れた海岸崖地に群落があり、不定芽が流れ着いて定着したと推定される。	⑦各県:高知	写真図鑑、便覧、小笠原固有、POWO、梶田ら2022、		
新規	51	小笠原・南西諸島	マメ	アマクズ(シナクズ、シナノクズ)	<i>Pueraria lobata</i> subsp. <i>thomsonii</i>					◎	○	○	○	◎	◎	○				○		インド、ミャンマー、インドシナ半島、中国、フィリピンに分布。ハワイなどに帰化。	沖縄県に帰化。	10m、つる性半低木	雑木林や疎林、農地などに生育する。	飼料植物として栽培されていたものが沖縄(首里)で逸出帰化。	クズの変種。マメの鞘やぐがクズよりも大きいのが特徴。	⑦各県:沖縄	野生植物2、便覧、Flora of china、POWO、沖縄		
新規	52	小笠原・南西諸島	キントラノオ	アセロラ(パルバドスチーリー)	<i>Malpighia emarginata</i>					○			◎		◎	○	○			○		西インド諸島から熱帯アメリカにかけて分布。	小笠原諸島、沖縄県に帰化。	4m、常緑低木	栽培地からの逸出。	果実が食用になり、世界中で栽培されている。また、生垣に利用されることもある。	<i>Malpighia glabra</i> もアセロラとして栽培されている。	⑦各県:沖縄	琉球の樹木、有用		
新規	53	小笠原・南西諸島	トケイソウ	ヒメトケイソウ	<i>Passiflora suberosa</i> var. <i>minima</i>	暖地の森林の林縁や林内				(◎)			◎	◎	◎	○	○				○	西インド諸島原産。アジア地域、オーストラリア、インド、スリランカ、マレーシア、マダガスカルなどに分布。	渡来年代不明。琉球(徳之島)、沖縄に分布。	10m、つる性一年草または多年草	林縁に生育する。	—	ミスミトケイソウとは変種関係で、本種のほうが大きくなり繁茂する。CABIでは <i>P. suberosa</i> 。耐陰性があり、在来植物を日隠するため注意が必要。	⑦各県:沖縄	写真図鑑、便覧、CABI、POWO		
新規	54	小笠原・南西諸島	トケイソウ	ミスミトケイソウ(スズメトケイソウ、クロミトケイソウ)	<i>Passiflora suberosa</i> var. <i>suberosa</i>	暖地の森林の林縁や林内				○			◎	◎	◎	○	○				○	南アメリカ、中央アメリカから南太平洋諸島原産。熱帯～亜熱帯に広く分布。	1967年渡来、宮古諸島、八重山諸島、沖縄本島に分布。	5m、つる性一年草または多年草	林縁に生育する。	果実は熟すと甘い。	CABIでは <i>P. suberosa</i> 。耐陰性があり、在来植物を日隠するため注意が必要。	⑦各県:沖縄	写真図鑑、園芸事典、CABI、POWO		
新規	55	小笠原・南西諸島	クサスギカズラ	アスパラガス的一种	<i>Asparagus</i> spp.							○								○	—	沖縄県で帰化。	—	—	—	—	—	⑦各県:沖縄	沖縄		
新規(候補)	56	小笠原・南西諸島	サトイモ	オウゴンカズラ(ポトス)	<i>Epipremnum aureum</i>	暖地の森林	Ⅳ			◎	—	—	×	◎	◎	◎	◎	—	—	○	—	東南アジア原産。世界中の亜熱帯、熱帯域に広く分布。	渡来年代は不明。鹿児島県、沖縄県、小笠原諸島に分布。	12m、つる性多年草	亜熱帯の森林内、林道沿い、林縁などの環境において、他の樹木に絡みついて生育する。	観賞用として多くの国で利用される。別名ポトスは、旧学名 <i>Pothos</i> による。	地面を這った茎が根を張り、クローンで分布を拡大する。ほとんど開花・結実した様子を見ることはない。	⑦各県:鹿児島条例・奄美・沖縄、⑫環境省関東・沖縄奄美、農水省、米倉委員	写真図鑑、便覧、有用、POWO		
新規	57	小笠原・南西諸島	サトイモ	ホウライショウ(モンステラ)	<i>Monstera deliciosa</i>	暖地の森林				◎			○	◎	◎	◎				○		メキシコ、中央アメリカ原産。バングラデッシュ、朝鮮半島などに分布。	明治年間に渡来、小笠原諸島、沖縄県に分布。	10m、つる性多年草	熱帯低地林に生育する。現地ではしばしば着生状態となる。	観葉植物として各国で栽培される。果実は食用となるが、成熟に時間がかかる等で、大量生産にはいたっていない。		⑦各県:沖縄	便覧、琉球の樹木、WFO、POWO		

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入								
新規	58	小笠原・南西諸島	サトイモ	オオミツバカズラ (シンゴニウム・アウリツム)	<i>Syngonium auritum</i>	暖地の森林				◎	×	－	○	◎	◎	○		－	－	○	－	西インド諸島原産。プエルトリコに分布。	沖縄県で帰化。	5m、つる性多年草		観葉植物として各国で栽培されている。	近縁種のオオミツバカズラ <i>S. podophyllum</i> は侵略的な外来種とされ、西表島に帰化。	⑦各県: 沖縄	POWO、CABI、梶田ら2022
新規	59	小笠原・南西諸島	サトイモ	ヤバネイモ(アメリカサトイモ、ココヤム)	<i>Xanthosoma sagittifolium</i>	暖地の森林				◎	×	－	○	◎	◎	◎	○	－	－	○	－	南アメリカ原産。世界の熱帯域でサトイモ科でもっとも普通に栽培される。	沖縄県で帰化。	2m、多年草	畑地から森林内の林床まで様々な環境に適応し、生育する。	イモや葉が、様々な料理に利用される。栽培用に持ち込まれたものが各地で野生化している。	サトイモによく似ているため、地域によっては両種を区別せずにココヤムと呼ぶことがある。寒さに弱い。	⑦各県: 沖縄	有用、園芸事典、POWO、CABI
新規(候補)	60	小笠原・南西諸島	キキョウ	ホシアザミ(イソトマ、ヒッポプロマ・ロンギフロラ)	<i>Hippobroma longiflora</i>		Ⅲ			○	－	－	◎	○	○	○	－	◎	(○)	○	－	西インド諸島原産、世界の熱帯に広く帰化。	沖縄県に分布。	0.6m、多年草	牧草地、放牧地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。湿地に多い。日陰地や海岸地帯にもみられる。耐寒性はない。	猛毒があり、できれば栽培しない方が良いとされる。見本的に栽培されることがある。通販サイトで種子が販売される。	有毒植物。茎を切ると乳液を出す。白い汁が1滴目についただけで失明するといわれる。全株にエグミがあり、口にすると炎症を起こす。心臓や神経に作用するアルカロイドを含む。	⑪その他: 環境省那覇、⑫沖縄奄美	写真図鑑、園芸事典、世雑Ⅰ
新規(候補)	61	小笠原・南西諸島	ノウゼンカズラ	センダンキササゲ(ステレオスペルマム、ステレオスペルムム、ラデルマケラ・シニカ)	<i>Radermachera sinica</i>		Ⅳ			◎	－	－	◎	○	○	◎	○	－	－	○	－	台湾、中国南部～東南アジア	奄美大島で分布を拡大。	10m、落葉性の小高木	日当たりの良い路傍などに生える。耐寒性は強く、2～3℃で越冬できる。	最近、幼木が観葉植物として利用される。種子、挿木、取木で増殖できる。中国では解熱、止痛の民間薬にする。	小さな種子を大量につける。成長が早い。	⑦各県: 奄美、⑫環境省沖縄奄美、米倉委員	園芸事典、有用
新規(候補)	62	小笠原・南西諸島	イネ	ルビーガヤ(ホクチガヤ)	<i>Melinis repens</i>		Ⅱ			○	×	－	◎	○	○	○	○	－	(○)	－	◎	熱帯アフリカ原産、熱帯～温帯に広く分布。	1966年に琉球、1994年に三重県で記録。本州、四国、九州、琉球、小笠原諸島に分布。	1.5m、一または短命な多年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地、林縁に生育する。日当たりの良いところを好み、砂質土壌に多く、やせ地や乾いた土壌に適応する。	－	兄島で駆除事業を実施。種子と根茎で繁殖。種子の伝播は風、雨、動物、人間による。熱帯～亜熱帯の畑地雑草で、乾いた畑地で問題になる。	⑪その他: 環境省関東	帰化植物、写真図鑑、世雑Ⅲ、イネ2
新規(候補)	63	小笠原・南西諸島	パパイヤ	パパイヤ(パパイヤ、パパヤ、モッカ、チチウリ)	<i>Carica papaya</i>		Ⅱ			◎	×	－	◎	○	○	○	◎	－	－	◎	－	熱帯アメリカ原産。亜熱帯、熱帯に広く帰化。	小笠原諸島には1830年に持ち込まれた。本州(千葉県)、琉球、小笠原諸島に分布。	8m、草本状常緑小高木	琉球では、鳥やオオコモウリも果実をよく食べ、集落周辺の林縁によく野生化している。	琉球では古くから民家の庭先などで栽培され、未熟果は野菜、完熟果は果物として利用される。	特別保護地区の母島の石門地域の湿性高木林のギャップに先駆種として侵入し、在来植物と競合している。雌雄異株、雌雄同株の品種もある。	⑪その他: 環境省関東、⑫農水省	写真図鑑、便覧、琉球樹木、小笠原
新規	64	小笠原・南西諸島	キツネノマゴ	ヤバズカズラ(ヤバネカズラ)	<i>Thunbergia alata</i>					○	×	－	○	○	○	○	○	－	－	○	－	熱帯アフリカ原産。熱帯・亜熱帯各地に帰化。	1879年養蜂用に導入された。小笠原諸島には広く分布し、父島では大群生がみられる。	3m、つる性の常緑草本	畑横の防風林の中や林縁地などに植えられたものが野生化した。	小笠原諸島へは蜜源植物として導入されたが、利用されなくなった。熱帯性木本として流通、栽培される。多くの園芸品種がある。	種子を撒いてその年に咲くので一年生草本としても栽培される。	⑪その他: 環境省関東	便覧、JF、熱帯花木、小笠原
新規	65	小笠原・南西諸島	キク	コケセンボンギクモドキ	<i>Erigeron belloide</i>					○	×	－	◎	○	○	○	○	－	－	－	－	原産地不明	1980年に沖縄県で確認され分布を拡大、その後、奄美大島、喜界島で確認。	直径は4～6cm、多年草	やや湿り気のある日当たりの良い環境を好むが、乾燥地にも適応して広がる。公園や林道など人為的な攪乱をされた裸地を好む。		絶滅危惧種のコケセンボンギクと誤認されることがある。	⑦各県: 奄美、⑫環境省沖縄奄美	写真図鑑、奄美
新規(候補)	66	小笠原・南西諸島	アカバナ	セイヨウミズユキノシタ(ルドウィジア・パルストリス、ルドウィジア・ナタンス)	<i>Ludwigia palustris</i>	湖沼、河川、湿地	Ⅱ、Ⅳ			◎	－	－	◎	◎	◎	◎	◎	－	－	○	－	北半球の温暖部に広く分布。	1984年頃に渡来。	抽水性の多年草	湖沼、水路、湿地などの水辺、時に水中、泥地や湿った林道などでマット状に生育する。	水槽栽培では節間が長く伸び、あまり向かないが、丈夫で育て易い。	種子と千切れた断片から生育する。奄美大島の遺産のコアエリアに侵入し、渓流域の岩上に生育する希少種と競合している。	⑦各県: 奄美、⑫環境省沖縄奄美	写真図鑑、水草Ⅰ、便覧、奄美
新規	67	小笠原・南西諸島	ヒルガオ	ヒメコガネヒルガオ	<i>Merremia gemella</i>																				E.Walker, Fl. Okinawa: 872 (1976) は琉球からの記録はコガネヒルガオの誤同定であろうとする。実際に当時知られていてヒメコガネヒルガオと同定されていた沖縄産標本はツタノハヒルガオと同定できるものであった。	⑦各県: 沖縄	YList		
新規(候補)	68	小笠原・南西諸島	キツネノマゴ	ベニツツバナ(オドントネマ・ストリクツム)	<i>Odontonema strictum</i>		Ⅳ			◎	×	－	◎	◎	◎	○	○	－	－	○	－	メキシコ～中央アメリカ原産。熱帯地方に広く帰化。	沖縄に分布。	3m、低木状多年草	溪流沿いの林内	草花類として流通、利用される。	種子、栄養繁殖の力は非常に強く、耐陰性があるため、沖縄県の各島で溪流沿いの林内に野生化し広がっている。	⑦各県: 沖縄、⑫米倉委員	写真図鑑、園芸事典、JF
新規	69	小笠原・南西諸島	キク	ヒマワリカッコウ	<i>Praxelis clematidea</i>															－	南アメリカ原産。アジア、オーストラリアに分布。	西表島に分布。					⑦各県: 沖縄	POWO、梶田ら(2022)	
新規(候補)	70	小笠原・南西諸島	マメ	ドクフジ(デリス、トバ)	<i>Derris taiwaniana</i>		Ⅱ			◎	－	○		◎	○	◎	◎	－	－	◎	－	カンボジア～東インド、マレーシアに分布。	1917年に父島と母島に導入され、野生状の群生地がみられるようになった。	20m、落葉藤木	小笠原の森林内で広く見られる。	戦前に根から農薬用殺虫剤を作るため大量に栽培された。	繁殖力が旺盛で、低木類を覆いつくし、高木類に登はんして、枯死に追い込んでいる。	⑫農水省	Ylist、小笠原
新規	71	小笠原・南西諸島	ミソハギ	ネバリミソハギ	<i>Cuphea carthagenensis</i>					○	－	－	○	○	○		○	－	(○)	－		熱帯アメリカ原産、世界の温帯～熱帯に分布。	南西諸島などの暖地に戦後帰化した。	0.6m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。日当たりが良く、やや湿ったところを好む。		奄美大島ではコアエリアを縦断する奄美中央線上にほぼ蔓延状態。森林域の未舗装路に侵入。種子の伝播は風、雨、動物などによる。	⑫環境省沖縄奄美	野生植物3、世雑Ⅱ
新規	72	小笠原・南西諸島	マメ	ハイクサネム(アメリカゴウカン)	<i>Desmanthus illinoensis</i>					○		○			○			－				北アメリカ原産	沖縄では1965年頃、神奈川県では1997年に確認。奄美で分布拡大中。	1m、多年草	道端、野原、公園の草地			⑫環境省沖縄奄美	便覧、写真図鑑
新規(候補)	73	定着初期／限定分布	オモダカ	ヒメウキオモダカ(サジタリア・スプラタ、サジタリア・スブラータ、アメリカウリカワ、チェーンサジタリア、サジタリア)	<i>Sagittaria subulata</i>		Ⅱ、Ⅳ			◎	－	－	○	◎	◎	○	○	－	－	○	－	アメリカ合衆国東海岸の諸州	2016年に富山県高岡市の湧水で確認された。	0.5m、沈水～浮葉性の多年草	淡水または塩分を含む湿地	チェーンサジタリアやサジタリアの名で、アクアリウムプラントとして流通、利用される。ヒメオモダカの名で流通、販売されているのは別種。	駆除をしてもすぐに回復する。バイカモなどの在来種の激減が著しい。生育環境により生育形や葉形の変異が著しく、種内変異や別種を分ける見解がある。	⑫角野委員	Ylist、角野2021、水草Ⅱ、園芸事典
新規(候補)	74	分布拡大期～まん延期	マメ	キダチコマツナギ(トウコマツナギ、中国産コマツナギ、外国産コマツナギ)	<i>Indigofera</i> sp.		Ⅰ			○	◎	○	○	－	○	○	－	－	－	◎	－	中国原産	2000年代前半に逸出、野生化し、北海道～沖縄県に分布する。	4m、落葉低木	荒地、河川敷、道端、道路法面、空地、林縁	新たに道路整備した場所の緑化目的で中国などから導入された。	トウコマツナギ <i>I. bungeana</i> にあてたり、コマツナギ <i>I. pseudotinctoria</i> と同種にする見解があり種の扱いには再検討を要する。※リスト作成時には、外国産コマツナギとして国内に分類していた。	⑥専門家: 交雑Ⅺ、⑪各県: 栃木・滋賀・兵庫・高知・福岡・佐賀・高松・宮崎、⑫勝山委員	写真図鑑、野生植物2、吉田2015
新規(候補)	75	小笠原・南西諸島	ムクロジ	タイワンモクゲンジ(タイワンセンダンボダイジュ)	<i>Koelreuteria henryi</i>		Ⅳ			◎	－	－	◎	○	○	◎	○	－	－	○	－	台湾、中国原産。	小笠原諸島や南西諸島で時に野生化している。	15m、落葉高木	性質は強健、植栽地周辺の林縁などに逸出する。関東の気候で越冬する。日当たりの良い場所を好む。	温帯性木本として流通、販売される。街路樹、公園樹に利用される。	別学名 <i>K. elegans</i> ssp. <i>formosana</i> 。種子は風散布。	⑫米倉委員	Ylist、JF、琉球樹木、小笠原固有、園芸事典
新規(候補)	76	小笠原・南西諸島	ウコギ	ヤドリフカノキ(ホンコンカボック、シェフレラ・アルボリコラ、シェフレラ、カボック)	<i>Heptapleurum arboricola</i>		Ⅳ			◎	－	－	◎	○	○	◎	○	－	－	○	－	台湾、中国海南島原産。	小笠原諸島、南西諸島に分布する。	7m、半つる性の常緑小高木	岩場や林縁、湿った林内などに逸出している。0℃程度に耐え、乾燥、日照不足にも強い。萌芽力も強い。	変異が多く、観葉植物類としてホンコンカボック等の様々な品種が流通、販売される。生垣、庭木、公園樹、観葉植物に利用される。中国では薬用にされる。	別学名 <i>Schefflera arboricola</i> 。	⑫米倉委員	野生植物5、琉球樹木、JF、Ylist、小笠原固有、有用、園芸事典

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目												原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	備考	抽出根拠	文献等		
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害										逸出・拡散	
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入								
新規(候補)	77	小笠原・南西諸島	サボテン	モクキリン(ハキリン)	<i>Pereskia aculeata</i>		Ⅳ			◎	×	－	◎	◎	○	◎	○	○	－	○	－	南アメリカ原産。	小笠原諸島、南西諸島で野生化している。	10m、つる性の常緑低木、刺がある	耐塩性があり、海岸林や低地の林縁などに野生化している。葉の基部や枝の刺で他の植物を覆うように絡む。	多肉・サボテン類として流通、販売される。庭木や台木に利用される。果実や多汁な葉は食用にされる。	繁殖力が強く、耐塩性もあるため、海岸林を中心に沖縄島ではかなり目立つ存在になりつつある。刺もあって厄介である。	⑫米倉委員	JF、琉球樹木、有用
新規(候補)	78	分布拡大期～まん延期	黄藻植物門ハネケイソウ	ミズワタクチビルケイソウ	<i>Cymbella janischii</i>		Ⅴ			○	－	◎	◎	◎	○	－	－	◎	－	◎	アメリカ合衆国原産、太平洋岸北西部に分布、太平洋岸北東部に移入。	2006年頃に筑後川水系に侵入し、本州、四国、九州に分布する。	380μm、ミズワタ状に群生する	河川付着珪藻で、河床の石が土砂で埋まって動きにくい場所、コンクリートで固められた場所(水叩き)、岩盤が露出した場所等で生育する。	底生の生物群集構造や食物網構造を変化させる。放流したアユが定着し難くなる。漁網や取水施設を目詰まりさせる。ミズワタ(バクテリアの一種)とよく似ていて誤認の可能性がある。	⑫坪井委員(魚類WG)	水産庁2024、麦倉ら2022		
新規	79	未定着	マメ	カマバアカシア(オーリクリフォルミス)	<i>Acacia auriculiformis</i>			○	○	×	○								○		オーストラリア北部～ニューギニア原産。パングラディシュとブラジルに分布。		小高木	日本では、温帯性木本として流通、利用される。マレーシア地域で街路樹や公園樹、パルプ、薪炭材に利用される。熱帯の造林樹種にされる。		⑩海外:ISSG	JF、有用		
新規	80	未定着	マメ	クラシカルパ・アカシア	<i>Acacia crassicarpa</i>				○	×	○										インドネシアに分布。						⑩海外:ISSG		
新規	81	未定着	マメ	アカシア・サイクロプス	<i>Acacia cyclops</i>				○	×	○											南アフリカに分布。						⑩海外:ISSG	
新規	82	定着初期／限定分布	マメ	フサアカシア(ミモザアカシア、ハナアカシア)	<i>Acacia dealbata</i>				○	×	○								○		タスマニアとオーストラリア原産、チリ、南アフリカ、ヨーロッパに分布。	明治初年に渡来、本州(愛知県、大阪府、広島県、岡山県)で逸出	15m、常緑高木	耐寒性がある。	日本では、温帯性木本として流通する。関東地方以西の沿海部で、庭園樹、緑化樹として栽植される。ミモザの名で庭木、切り花にされる。オーストラリアでは樹脂をアラビアゴムとして利用、原住民は食用にした。	別学名 <i>A. decurrens</i> var. <i>dealbata</i>	⑩海外:ISSG	JF、便覧、有用、園芸事典	
新規	83	未定着	マメ	アカシア・デクレンス(ブラックワトル、ミモザアカシア)	<i>Acacia decurrens</i>				○	×	○								○		オーストラリア東部原産、アルジェリア、エチオピア、インドネシアに分布。		18m、常緑の小高木	寒さに少し弱い。	日本では、温帯性木本として流通、利用される。海外ではアラビアゴムに類似した樹脂が採取され、樹皮はタンニン原料になる。	樹齢が短く、日本での栽培は一般には、すすめられない。	⑩海外:ISSG	JF、有用、園芸事典	
新規	84	未定着	マメ	ホロセリセアアカシア	<i>Acacia holosericea</i>				○	×	○										セネガルとブルキナ・ファソに分布						⑩海外:ISSG		
新規	85	未定着	マメ	ゴールドンワトル(ピクナンタ)	<i>Acacia pycnantha</i>				○	×	○								○		オーストラリア原産、ヨーロッパ、アメリカ合衆国、アフリカ等に分布する。		8m、常緑の小高木	暖地で育つが生長はあまり良くない。	日本では温帯性木本として流通、利用される。海外では観賞用とタンニン原料として栽植される。		⑩海外:ISSG	JF、有用、園芸事典	
新規	86	未定着	マメ		<i>Acacia sclerosperma</i>				○	×	○										サウジアラビアに分布する。						⑩海外:ISSG		
新規	87	未定着	キク	ユーバトリウム・カンナビナム(ヘンブ・アグリモニ、ホーリーローブ)	<i>Eupatorium cannabinum</i>			○	－	◎	－	○	◎	○	○	○		－	(○)	－	ヨーロッパ原産、ヨ北アフリカ、西アジア、北アメリカに分布する。		1.5m、多年草	牧草地、樹園地の周辺、河岸、荒地、林縁などに生育する。肥沃で湿った所を好む。日当たりのよい河川近くに群生する。	かつてヨーロッパで薬用にされた。	土壌の栄養分や水分が変化し、在来植物の生育環境が変化する可能性がある。種子と木質化した地下茎で繁殖する。多数の種子は主に風で散布され、雨、動物、人間なども関わる。牧草地や果樹園の雑草。	⑩海外:ISSG	世雑Ⅰ、有用	
新規	88	未定着	紅藻植物門オゴノリ	オゴノリ属	<i>Gracilaria gracilis</i>														○		地中海と黒海原産に侵入。			海域	貝類とともに持ち込まれた。	⑩海外:ISSG			
新規	89	未定着	イネ	タイハイヨウカモノハシ(チモールカモノハシ)	<i>Ischaemum timorense</i>			○	－	○								－	(○)	－	南アジア原産、熱帯～亜熱帯に分布。		0.6m、多年草	畑地、牧草地、樹園地、芝地、路傍、荒地	畑作物の収量と品質低下	⑩海外:ISSG	Ylist、農研		
新規	90	未定着	フトモモ	カヌカ	<i>Kunzea ericoides</i>			○	－	◎										－	オーストラリア、ニュージーランド原産、アメリカ合衆国に分布		6m、低木または小高木	牧草地、森林、海岸低木林			⑩海外:ISSG		
新規	91	未定着	イグサ	ルズラ・カンベストリス	<i>Luzula campestris</i>			○	－	○										－	ヨーロッパ原産、北アメリカ、オーストラリア、西アジアの温帯に分布する。		0.3m、多年草	芝生地、牧草地、路傍に生育する。日当たりの良いところを好む。	種子を食用にしたことがある。	母種の分布域は限られるが、世界的に変種が多く、日本にも数変種がある(Ylistでは別種扱い)。種子と根茎で繁殖する。種子の伝播は風、水、動物、人間等による。	⑩海外:ISSG	Ylist、世雑Ⅲ	
新規	92	未定着	バラ	ナンヨウバライチゴ(トキンイバラ、ポタンイバラ、ロシフォリウス、コマースニー)	<i>Rubus rosifolius</i>			○	◎	◎			◎		○	◎		○		○	オセアニア原産、アメリカ合衆国、タイ、大西洋と太平洋の島等に分布。		2m、低木、茎に刺がある	林縁、伐採地、峡谷、湿った森林の下層に生育する。日当たりが良く、湿った栄養豊富な土壌を好む。	日本では観賞用に宝永年間(1704～10)に庭に植えられた。現在も温帯果樹として流通、利用される。海外では果実は食用、葉のお茶は薬用にされる。自生地では攪乱された場所の再生に利用される。	果実は鳥やネズミに散布される。	⑩海外:ISSG	園芸事典、JF	
新規	93	未定着	イネ	スポロボルス・アフリカヌス	<i>Sporobolus africanus</i>			○	－	◎								－	(○)	－	○	オーストラリア、北アメリカ、アフリカ、に分布する。		1m、多年草	路傍、草地、牧草地	海外では果実や葉が薬用にされる。	種子は大量に生産され、最長10年間生存する。種子は動物、衣服、車両、機械に付着する。種子は土壌を介して機械や車両に付着して拡散し、汚染された乾草や牧草の種子を介して繁殖する可能性がある。	⑩海外:ISSG	世雑Ⅲ
新規	94	分布拡大期～まん延期	ナデシコ	ノミノコブスマ	<i>Stellaria alsine</i>					○		－	－	○	－			－	○	－	○	ユーラシア原産、温帯に分布する。ヨーロッパ、北アフリカ、アジア、北アメリカ、ニュージーランドに分布する。	1965年ごろ渡来、北海道、本州(東京都、長野県、岡山県)、九州(大分県)に分布。	0.4m、越年草	原野、畑地、路傍、湿地などに生育する。湿ったところを好み、日当たりの良い所～半日陰に適する。肥沃地に多い。熱帯～亜熱帯の高冷地にもみられるようになった。	フランス領南方地域で侵略的。ムギ類の栽培に伴って世界各地に広がった。種子と根茎で繁殖する。種子の伝播は風、雨、動物、人間などによる。	⑩海外:ISSG	便覧、帰化植物、世雑Ⅱ	

リスト加除対象の候補種一覧 <植物>

【国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

掲載(変更) : 現行リスト掲載種で変更がある種。
再検討 : 現行リスト作成時に掲載外とした種で、今回新たな情報追加により再検討を行う。
新規 : 現行リスト作成後の新規の追加種。
新規(候補) : 現行リスト作成後の新規の追加種で、掲載候補種。

現行リスト掲載種と現行リスト作成時に検討対象となったが掲載外とした種について、現行リスト公表後に情報更新した部分

(1) 現行リスト掲載種

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														分布	形態	生育環境など	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散								
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入							
掲載(変更)	194	国内由来の外来種	クワ	小笠原諸島などのガジュマル	<i>Ficus microcarpa</i>	小笠原諸島(父島を削除)	Ⅱ、Ⅳ			◎	×	—	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	—	屋久島以南、琉球、台湾、中国大陸南部、東南アジア、インド、ニューギニア、オーストラリアに分布。	20m、常緑高木	海岸近くに生える。	南西諸島では防風、防潮用のほか木陰樹としても植えられる。市販品が流通、販売されており、観葉植物としても利用される。	果実は食べられる。ISSGの表題は <i>Ficus microcarpus</i>	⑥専門家: 海洋島6、⑦各県: 小笠原、⑩海外: ISSG、⑫安部委員(変更)	木本Ⅰ、JF、観葉植物

(2) 現行リスト作成時の未掲載種の再検討(順不動)

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														分布	形態	生育環境など	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散								
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入							
再検討	1		トクサ	スギナ	<i>Equisetum arvense</i>	立山				◎			◎	◎	○	○	○				○	北海道～薩南諸島の吐噶喇列島	0.3m、夏緑性	山野、路傍、市街地			⑤対策: H20<4、⑫地方公共団体	シダ、雑管
再検討	2		ヤナギ	オノエヤナギ	<i>Salix udensis</i>	立山				◎	◎		◎	○	◎	◎	○			○		北海道、本州、四国、千島、サハリン、カムチャツカ、シベリア東部に分布。	落葉高木	湿地や川岸に生える。	園芸的には、ジャリュウヤナギ 'Setsuka' が多く栽培される。	立山では重点除去対象エリアが発生している。	⑤対策: H20<4、⑫地方公共団体	木本Ⅰ、園芸事典
再検討	3		タデ	イタドリ	<i>Fallopia japonica</i> var. <i>japonica</i>	立山				◎	◎		◎	◎	○	㊱						北海道～九州、奄美諸島	1.5m、多年草	日当たりの良い荒地や斜面		立山では重点除去対象エリアが発生している。	⑦各県: 兵庫、⑫地方公共団体	草本Ⅱ、雑管
再検討	4		タデ	オオイタドリ	<i>Fallopia sachalinensis</i>	立山				◎	◎		◎	◎	○	㊱			◎			北海道、本州中部以北	3m、多年草	山野に生える。法面緑化用の種子に混入か。		立山では重点除去対象エリアが発生している。	⑦各県: 高知、⑫地方公共団体	草本Ⅱ、雑管
再検討	5		キク	フキ	<i>Petasites japonicus</i>	立山				◎			◎	◎	○	◎		○	○			岩手県水沢付近～琉球	0.6m、多年草	山地の路傍		立山では重点除去対象エリアが発生している。	⑤対策: H20<4、⑫地方公共団体	草本Ⅲ、雑管
再検討	6		イネ	ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>	立山				○	◎		◎	◎	○	㊱		○	◎			北海道～琉球	2.0m、多年草	平地～山地までの陽地に普通		立山では重点除去対象エリアが発生している。	⑥専門家: 交雑18、⑦各県: 兵庫、⑩海外: ISSG、⑫地方公共団体	草本Ⅰ、雑管
再検討	7		イネ	スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i>	立山				◎				◎	○	○	◎	○	○			日本全土	0.3m、一年草	平地、日当たりの良い畑、人家の周囲		立山では重点除去対象エリアが発生している。	⑤対策: H20<4、⑩海外: ISSG、⑫地方公共団体	草本、雑管、花粉
再検討	8		ツユクサ	マルバツユクサ	<i>Commelina benghalensis</i>					○	◎		◎	◎	○	○	—	㊱	○	◎		関東以西～琉球、小笠原。	1.0m、一年草～多年草	畑地、路傍、荒地、牧草地、果樹園、海岸に近い砂質地	各地で栽培される。	ヤシ殻を用いた輸入の園芸用土などに種子が混入する。繁殖力が高く在来種と競合	④FAO: 6*、⑦各県: 徳島、⑩海外: ISSG、⑫地方公共団体	世雑Ⅲ、草本Ⅰ、写真図鑑

(3) 現行リスト作成後の新規追加種(順不動)

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														分布	形態	生育環境など	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散								
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入							
新規	1		モクセイ	シマトネリコ(タイワンシオジ)	<i>Fraxinus griffithii</i>					○	○	○	◎	◎	◎	◎	—	—	—	○	—	琉球、台湾、中国、ベトナム、フィリピン、インドなどに分布。	10m、半常緑高木	日本では、市街地の草地、道端、自生地では、低地から山地の林内、林縁、沢沿いなどに生える。	日本では、涼しげな常緑樹として庭木、公園樹、観葉植物などに人気を博しているが、琉球においては植栽はあまり多くない。	増殖は種子で行う。	⑦各県:高知・宮崎	⑦各県:高知・宮崎、野生植物5、POWO、琉球の樹木、園芸事典、中野2015
新規	2		マメ	ツルフジバカマ	<i>Vicia amoena</i>					○	◎	—	—	—	—	—	—	—	—	○	北海道～九州、朝鮮半島、中国、モンゴル、ロシアなどに広く分布。	2m、つる性多年草	山野の草原、道端でふつうに、またときに海岸の林縁にみられる。		鹿児島県の自生情報は得られなかった。一方で、鹿児島大学の植物標本 KAG0294591には、「阿蘇からの芝に由来」と明記されているため、国内外来種として扱っている。	⑦各県:鹿児島	⑦各県:鹿児島、野生植物2	
新規	3		キク	シロバナタンポポ	<i>Taraxacum albidum</i>					○			◎	◎	◎	○	—	—	—	—		日本固有種で、本州、四国、中国、九州に広く分布。	多年草	低地の路傍や草地に生育する。			⑦各県:沖縄	⑦各県:沖縄、野生植物5
新規	4		フウロソウ	ヒメフウロ	<i>Geranium robertianum</i>					○	◎	—	○	○	○	—	—	—	—	○	—	滋賀県、岐阜県、三重県、広島、四国(剣山、立石山)、ユーラシア大陸に分布。	0.6m、一～二年草	石灰岩地、人家近くの路傍。	現在、薬草としての栽培も広がりつつあるため、今後帰化したものが分布域をさらに広げる可能性が高い。	北海道と本州の各地で栽培品が逸出・帰化している。在来の個体と帰化したものの形態的区別は困難。	⑦各県:高知	⑦各県:高知、野生植物3、下野・姉川2023
新規	5		イワヒバ	イヌカタヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i>					○	○	—	◎	○	○	○	—	—	—	○	—	八重山諸島、中国、台湾、フィリピン、ベトナムなどに分布。	0.3m、シダ植物	人家周辺、石垣など。自生地では、溪流沿いの岩壁や大岩などに着生する。	日本では、唯一八重山諸島の個体群が野生であるとされる。絶滅危惧Ⅱ類(環境省レッドデータ)。	⑦各県:宮崎	⑦各県:宮崎、海老原図鑑1	

検討区分	No.	定着段階	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目																分布	形態	生育環境など	利用状況	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
								生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入									
新規	6		アオイ	キンゴジカ	<i>Sida rhombifolia</i> subsp. <i>rhombifolia</i>					◎				○	◎	◎	○	○		○	○	九州、琉球、小笠原、台湾から熱帯に分布。1951年に群馬県と神奈川県で帰化が報告された。本州以南に帰化。	1m、一年草、時に多年草	畑地、道端や荒地など。様々な土壌条件に適合する。	海外では、お茶にしたり、薬用利用される。茎から繊維をとり、麻の代用に織物や製紙原料にされる。	種子生産能力が高く、一個体が1万粒の種子を生産することもある。	⑦各県:高知	写真図鑑、世雑Ⅱ、有用、POWO、WWND、高知		
新規	7		ショウガ	ゲットウ(ハナソウカ、アルピニア・ゼルンベト、シェルジンジャー)	<i>Alpinia zerumbet</i>	小笠原諸島			○		—	○	○	○	○	○	—	—	○	—	九州南部～琉球、小笠原諸島、台湾、東南アジアなどに分布。小笠原諸島には八丈島から導入。	常緑の多年草	直射日光は避け、半日陰で栽培する。	観葉植物類として流通、栽培される。黄斑入り品種はキフゲットウと呼ばれる。	小笠原諸島では、各地に群落を形成している。増殖は普通株分けで行う。	⑪その他:環境省 関東	野生植物1、園芸事典			
新規	8		ラン	コ克蘭	<i>Diteilis nervosa</i>	小笠原諸島			○		—	—	○	○	◎	○	—	—	○	—	本州(福島県以南)、四国、九州、琉球、済州島、台湾に分布。	0.3、多年草	暖温帯の常緑樹林下に生える。	ラン類として流通、栽培される。	小笠原諸島では、近年増えており、感染症等で固有のラン科植物への影響が危惧される。	⑪その他:環境省 関東	JF、野生植物1			
新規(候補)	9		ミソハギ	シマサルスベリ	<i>Lagerstroemia subcostata</i>	小笠原諸島	Ⅱ		◎		—	○	○	○	◎	◎	—	—	◎	—	琉球、台湾、中国に分布。	10m、落葉高木	小笠原諸島の特に湿性環境で大木になり在来種を被圧している。やせ地でもよく育つ。本州でも良く育つ。	台湾から造林用に小笠原へ持ち込まれ野生化している。温帯性木本として流通、利用される。造園、並木用樹種として有望で、材質も建築、家具、薪炭に良い。	準絶滅危惧(NT)。種子と挿し木で増殖させる。	⑫農水省	JF、野生植物3、園芸事典			
新規(候補)	10		キツネノマゴ	ヒルギダマシ	<i>Avicennia marina</i>	沖縄島	Ⅱ		◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	—	宮古島以南の琉球、台湾、海南島、東南アジア、太平洋諸島、オーストラリア、東アフリカ	3m、常緑の小高木	マングローブの重要な構成要素。	沖縄島で、親水護岸に植栽された。	沖縄島では植栽から分布を拡大し、干潟で急激に分布拡大している。外来種のウラジロヒルギダマシも生育する。	⑫環境省沖縄奄美	野生植物5、新垣2024、新垣ら2013			
新規	11		グミ	オオバグミ(マルバグミ)	<i>Elaeagnus macrophylla</i>						○										本州(宮城県以南)、四国、九州、琉球、台湾、中国東部沿岸地、朝鮮半島南部	2m、常緑低木	果実は食用になる。		交雑	⑫地方公共団体	野生植物2、園芸事典			
新規	12		キク	ゴマナ	<i>Aster glehnii</i>	立山															南千島、北海道、本州、サハリン、千島列島中部に分布。	1.5m、多年草	山地の草原や道端にふつうにある。	立山では重点除去対象エリアが発生している。	⑫地方公共団体	野生植物5				
新規	13		ユリ	タイワンホトギス(ホソバホトギス)	<i>Tricyrtis formosana</i>	西表島、沖縄島			○	○	—			○	○		—	—	○		台湾、沖縄(西表島、沖縄島)に分布する。	0.8m、多年草	西表島では、ごく限られた溪流で日陰の滝沿いに少数個体が生育し、沖縄本島では、森林内の溪流沿いや日当たりの良い用水路沿いに生育する。	草花類として流通、利用される。	交雑。環境省のRLの絶滅危惧1A類。	⑫地方公共団体	野生植物1、園芸事典、JF、Tsunenariら2024			
新規	14		タデ	タニソバ	<i>Persicaria nepalensis</i>	立山			○					○		○					北海道～九州に分布、朝鮮半島、中国、北アフリカに分布。	0.5m、一年草	原野や山地の陽地または林縁	ヨーロッパでは時に栽培される。	立山では重点除去対象エリアが発生している。	⑫地方公共団体	野生植物4、園芸事典			
新規	15		シソ	ウツボグサ(カコソウ、カントリグサ)	<i>Prunella vulgaris</i> ssp. <i>asiatica</i> var. <i>lilacina</i>	立山			○				○	○	○	○					北海道～九州、東アジア～極東ロシアに分布。	0.4m、多年草	日当たりの良い山地の草原や道端	草花類として流通、利用される。	立山では重点除去対象エリアが発生している。	⑫地方公共団体	野生植物5、園芸事典、JF			
新規	16		キク	ヨモギ	<i>Artemisia indica</i> var. <i>maximowiczii</i>	立山			○			◎	◎	◎	○		○	○	○		本州～九州、小笠原	1.0m、多年草	山野にもっとも普通		立山では重点除去対象エリアが発生している。外国産ヨモギ類とは別扱いとした。	⑫地方公共団体	草本Ⅲ、雑管			
新規	17		アジサイ	バイカウツギ(サツマウツギ)	<i>Philadelphus satsumi</i>	立山			○						◎	○			○		本州(岩手県以南)、四国、九州(鹿児島県以外)	2m、落葉低木	山地に生える。	温帯性木本として流通、利用される。	立山では重点除去対象エリアが発生している。	⑫地方公共団体	野生植物4、園芸事典、JF			
新規	18		モクレン	シデコブシ(ヒメコブシ、ベニコブシ)	<i>Magnolia stellata</i>	野生種の近く			○	○	—		—	○	◎	—	—	—	○	—	本州(愛知県、岐阜県、三重県)	5m、落葉小高木または低木	低山、丘陵地	温帯性木本として流通、利用される。花卉数が多くて花色の変異もあり、観賞価値が高く、園芸的に広く利用される。	在来種と園芸品種との交雑が懸念される。シデコブシとタムシバの雑種を <i>M. × proctoriana</i> という。	⑫地方公共団体	野生植物1、JF、園芸事典			
新規(候補)	19		イネ	クサヨシ(リードカナリーグラス)	<i>Phalaris arundinacea</i>		I、Ⅳ		◎	◎	—	◎	◎	◎	○	—	—	○	◎	—	北海道～九州に自生し、北海道では明治年間の導入種が野生化したとされる。山形県、栃木県、奄美大島などで帰化。北半球の冷温帯に広く分布する。	1.8m、多年草	牧草地、水辺、水路、林縁、湿地に群生する。日当たりの良い、湿地～浅水の所、肥沃地に多く、土壌の種類を選ばない。寒冷湿潤な気候を好むが、耐暑性、耐乾性も強い。	牧草として利用される。草花類として流通、利用される。アメリカで育成された品種がある。	種子と根茎で繁殖する。種子形成量は多く、水で遠方まで伝播し、休眠性を持つ。牧草地や水路の雑草として制御される。	⑫角野委員、小山委員	野生植物2、便覧、北海道ブルーリスト、JF、ISSG、世雑Ⅲ、粗飼料、有用			

＜種の抽出に利用した既存の文献等＞

作業量の限界から、全体で数百種類程度となるよう、かつできるだけ異なる観点から抽出を行った。

①特定外来生物(12種)と要注意外来生物(84種)

②IUCNのワースト100のうち植物27種(在来種を除く全種が既に①に含まれている)。http://www.issg.org/database/species/search.asp?st=100ss&fr=1&str=&lang=EN

日本の侵略的外来種ワースト100のうち植物26種(既に全種が①に含まれている)。日本生態学会(2002)外来種ハンドブック。地人書館。

③村中ら(2005)掲載の108種(※河川重視の評価)。

村中孝司・石井潤・宮脇成生・鷲谷いづみ(2005)特定外来生物に指定すべき外来植物種とその優先度に関する保全生態学的視点からの検討。保全生態学研究10: 19-33。

④FAO方式による雑草性リスク評価の結果、6点以上の特に注意すべき外来植物(*は今後導入される可能性のある外来植物)

外来生物のリスク評価と蔓延防止策(文部科学省科学技術振興調整費・重要課題解決型プロジェクト)による雑草性リスク評価、日本農学会(2008)外来生物のリスク管理と有効利用。養賢堂。

⑤地方公共団体や民間団体により、対策の対象となっている種(数字は対策事例数)

環境省自然環境局野生生物課(2009)平成20年度外来種対策事例等に関する調査報告書。

環境省自然環境局野生生物課(2012)平成23年度外来種問題調査検討業務報告書。

⑥専門家アンケートで、ハビタットや在来種への影響が大きい(74人中5名以上があげた)種(数字は回答者数)

ハビタットの種類:海洋島、水生植物群落、河原・崩壊地の貧栄養礫砂地、里山の二次草原、貧栄養湿地、砂浜海岸、高山植生、塩性湿地、雑木林・都市林、極相林、低地岩場、海岸の岩場

小池文人・小出可能・西田智子・川道美枝子(2010)専門家アンケートによる在来植物の脅威となる外来生物の重要度評価 http://vegel.kan.ynu.ac.jp/lecture/invasiveness2010.pdf

⑦都道府県などで特に侵略的または優先的に対策すべきとされる種

01	北海道ブルーリスト2010、https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/alien/bluelist/bluelist_top.html カテゴリーA2:本道の生態系等へ大きな影響を及ぼしており、防除対策の必要性について検討する外来種17種(カテゴリーA1はなし、A3は106種が掲載)
	五十嵐博(2015)北海道外来植物便覧-2015年版-。北海道出版。 北海道ブルーリスト2010(639種)から新たに71種追加した710種の外来種について、原産地、原因、参考文献、分布情報を記した。北海道指定外来種に指定された2種(イワミツバ、フランスギク)も同様。 江川知花・西村 愛子・小山 明日香・露崎 史朗(2017)北海道サロベツ湿原泥炭掘跡地における外来植物の侵入。保全生態学研究, 22: 187-197。 サロベツ湿原において、ヒメスイバ、エゾノギシギシ、フタナの3外来種の侵入を記録し、希少種の生息する重要な環境に悪影響を与える可能性を言及した。 北海道生物の多様性の保全等に関する条例 指定外来種の指定種一覧 https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/shiteigairairishu01.html
02	青森県(2006)青森県外来種対策学術調査報告書ー青森県外来種リストー。http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/files/2008-0607-1553-a.pdf カテゴリーA(侵略的定着外来種):本県に定着している外来種のうち、生物多様性への影響が報告されている又は懸念される種のうち、代表的な選定種30種
07	福島県生活環境部自然保護課(2023)ふくしまブルーリスト2022 年度版.https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16035b/fukushimagairai.html 福島県の侵略的外来種リストに植物は61種が掲載。
09	栃木県、長谷川順一(2008)栃木県の自然の変貌, 自然の保全はこれでよいのか(自刊)。 近年増加が顕著な帰化植物 栃木県(2021)本県において優先的に対策を行う必要がある外来種について.https://www.pref.tochigi.lg.jp/d04/gairai_priority.html 優先対策種(対策の優先度が高い外来種)3種、策検討種(対策実施について検討すべき外来種) 8種類、侵入等警戒外来種(侵入を特に警戒する必要がある外来種) 11種類
10	群馬県、石川真一・清水義彦・大森威宏・増田和明・柴宮朋和(2009)外来植物の脅威ー群馬県における分布・生態・諸影響と防除方法ー。上毛新聞社事業局出版部。 県内で生育が確認され、生態系等への被害が想定される「県内危険外来種」11種
11	埼玉県環境防災部みどり自然課(2005)埼玉県内において在来の植生に悪影響を及ぼすおそれのある侵入的外来植物について。改訂・埼玉県レッドデータブック2005植物編。pp.299-306。 危険度5 極めて危険・すでに在来植生に侵入し、在来種と競合して在来種を駆逐しているもの。コナダガモ、オオフサモなど17種 ・すでに在来種の種と交雑し、雑種に繁殖力があるもの。セイヨウタンポポなど 危険度4 非常に危険・すでに在来植生に侵入し、近い将来、在来種を駆逐する危険の高いもの。オニマタバなど25種 ・すでに在来種との交雑が確認されているが、現時点では雑種に繁殖力がないもの 侵入した植生のタイプ:河川敷、池沼・湿地、落葉樹林、林縁、路傍等
	埼玉県環境部自然環境課(2012)埼玉県の希少野生生物、埼玉県レッドデータブック2011植物編。https://www.pref.saitama.lg.jp/b0508/saitamakennoyseiiseibutu/reddatabook2011-plants.html 5 希少植物を脅かす外来植物 今後注目すべき外来植物17種
12	千葉県外来種対策(植物)検討委員会(2010)千葉県の外来種(植物)の現状等に関する報告書。 http://www.bdcchiba.jp/alien/bdc-alien/alienplantsreport2009.pdf 「影響度」および「緊急度」、「容易性」がともにAランクの23種 千葉県環境生活部自然保護課(2020)千葉県の外来生物リスト2020年改訂版 付加情報(生態系又は人に対する影響度、根絶の可能性を考慮した防除の緊急度)あり、影響度・緊急度ともにAの種数は、シダ2種、種子植物25種、蕨苔類1種。
13	小笠原諸島、延島冬生(2010)小笠原諸島に侵入している外来植物の現状。植調44(1)5-13。侵略的外来樹木9種、侵略的外来草本8種
14	丹沢大山地域の生態系に特に影響を与えるおそれのある外来生物リスト区分 https://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4y/03shinrin/e-tanzawa/shiraberu/gairai_ichiran.html 生態機への影響が大きい外来種12種、中規模の外来種11種を掲載。神奈川県植物誌と併用で抽出根拠に加筆した。
20	長野版 外来種対策ハンドブック https://www.pref.nagano.lg.jp/shizenhogo/kurashi/shizen/hogo/gairai/gairai-kennai.html 長野県で対策に取り組みたい外来種について、付加情報あり。木本4種と草本13種を掲載。
23	愛知県環境部自然環境課(2012)愛知県の移入動植物ブルーデータブックaiti2012(STOP!移入種 守ろう! あいちの生態系〜愛知県移入種対策ハンドブック〜付属資料抜刷) http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/handbook/pdf/10_shiryou3-plants.pdf 環境影響が大きい、あるいは今後大きくなることが予想される植物78種 愛知県、上記のうち「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(以下「条例」という。))において、生態系に著しく悪影響を及ぼすおそれのある移入種11種 https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/gairai-jourei.html
25	ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例、指定外来種 https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kankyoshizen/shizen/14014.html 滋賀県外来種リスト2019。https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5147117.pdf 付加情報はない。生態系被害防止外来種リストのカテゴリー区分および県独自の区分が記されている。強影響外来種(シダ植物1種、種子植物16種)、中影響外来種(シダ植物1種、種子植物49種)
26	京都府外来生物情報、京都府外来生物リスト http://www.pref.kyoto.jp/gairai/list/spermatophyta.html 被害甚大種(京都府内における被害が大きく、又は大きくなる可能性が強く緊急に策が必要な外来種)5種 被害危惧種(京都府内における被害があり、又は被害が生じる可能性が強く対策が必要な外来種)のうち特に被害が大きいと認められる種37種
28	兵庫県(2010)生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物への対応、兵庫県の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト)(2010) 2019年改訂版 Z警戒種(生物多様性への影響が大きい、または今後影響が大きくなることが予測される32種→2019年までの追加と削除で35種へ更新
30	和歌山県の外来種リスト https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032000/032500/gairai/list.html 付加情報あり。重点啓発外来種43種。
31	鳥取県生物学会(2007)鳥取県の外来性動植物のリスト(2007)。山陰自然史研究3:37-45。 本県への影響大とされる10種
33	岡山県、外来食虫植物の除去(岡山県自然保護センター)http://opnacc.eco.coocan.jp/chosa-kenkyu/gairai-shokuchu-shokubutsu.html
34	広島県、吉野由紀夫・太刀掛優・関太郎(2007)広島県における外来植物の現状とその問題点。比婆科学224:1-18。 ランクA:広島県の自然生態系に重大な影響をおよぼすおそれのある種64種
36	徳島県版生態系影響外来種リスト(2024)https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippannokata/kurashi/shizen/7239140/ 危険外来種 39種
37	香川県侵略的外来種リスト2021。https://www.pref.kagawa.lg.jp/midorihozen/seibutu/gairaiseibutu/gairailist.html 県独自の詳細な付加情報(選定理由、生態的特徴、侵入経緯、生息環境、影響被害、防除方法など)あり。緊急対策外来種(10種)、重点対策外来種(27種)、特別選定種(9種)。
38	愛媛県野生動植物の多様性の保全に関する条例に基づく侵略的外来生物の公表について http://www.pref.ehime.jp/h15800/gairaiseibutu/index.html、侵略的外来生物40種 2023年の見直しで35種となった。
39	高知県で注意すべき外来種リスト2020。https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2020070200344/file_contents/file_20207142142755_1.pdf 生態系被害防止外来種リストを基準とした付加情報あり。防除対策外来種(12種)、重点啓発外来種(137種)、産業管理14種 高知県の外来植物2019調査報告書。高知県立牧野植物園。 注意が必要な外来植物14種について詳細な情報あり。
40	福岡県侵略的外来種リスト2018。https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/sinryakugairai.html 詳細な付加情報、県独自の評価基準・区分あり。重点対策外来種(10種)、要対策外来種(88種)を掲載。
41	佐賀県環境の保全と創造に関する条例、移入規制種18種、https://sy.pref.saga.lg.jp/kenseijoho/jorei/reiki_int/reiki_honbun/q201RG00001140.html
45	宮崎県版レッドデータブック改訂検討委員会(2011)改訂・宮崎県版レッドデータブック宮崎県の保護上重要な野生生物。宮崎県環境森林部自然環境課。植物のブラックリスト11種類 宮崎県外来種リスト(2021)。 https://www.pref.miyazaki.lg.jp/documents/9782/9782_20211118104414-1.pdf 生態系被害防止外来種リストを基に作成されており、県内の定着段階と生育状況等の付加情報も掲載されている。緊急対策外来種8種、重点対策外来種36種、上記以外で外来種リストに掲載が必要なものの7種(県独自)
46	鹿児島県外来種リスト(2017一部改訂版)。http://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/documents/51561_20170405164635-1.pdf 付加情報(県内の導入分布地、原産地、侵入の経緯、影響の内容、特記事項)あり。県独自の区分あり。緊急防除種2種、重要防除種20種、一般防除種49種、重点啓発種374種 鹿児島県侵略的外来種番付表および鹿児島県侵略的外来種番付表説明文 本土と島嶼で分けて、特に問題がある外来種を対象にその被害を記した。植物は18種掲載。 指定外来動植物による鹿児島の生態系に係る被害の防止に関する条例 https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/jyourei.html 奄美、環境省九州地方環境事務所那覇自然環境事務所(2010)平成21年度奄美地域における国立公園特別地域内放出規制植物種検討調査業務報告書。 奄美野生生物保護センター(2024)外来植物対策の優先度リストhttps://kyushu.env.go.jp/okinawa/awcc/alien-priority.html A:積極的に防除作業を行い、島内からの排除を目指す(9種)、B:場所を限定して局所的な防除を進める(6種)、C:普及啓発等を通じて新たな拡散を防止(9種)など
47	沖縄県対策外来種リスト(令和6年3月更新)https://www.pref.okinawa.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/004/820/r6gairaisyulist.pdf 重点対策種2種、対策種85種など。 沖縄県希少野生動植物保護条例における指定外来植物 https://www.pref.okinawa.jp/kurashikankyo/shizenseibutsu/1018702/1004865.html ウチワゼニクサ(タテバチドメグサ)1種
⑧	多くの河川で確認されている種と、確認される河川数が急激に増えている種(表の数字は3回の調査での確認河川数) 河川水辺の国勢調査1・2・3巡回調査結果総括検討[河川版](生物調査編)平成20年3月 国土交通省河川局河川環境課 http://www3.river.go.jp/gaiyou.htm
⑨	緑化植物に関する三省調査で、法面緑化地周辺において逸出が確認された種(括弧内は調査実施主体の略) 環境省自然環境局・農林水産省農村振興局・林野庁・国土交通省都市・地域整備局・国土交通省河川局・国土交通省道路局・国土交通省港湾局(2006)平成17年度外来生物による被害の防止等に配慮した緑化植物取扱方針検討調査委託事業報告書。 なお、生態系への影響に対応した望ましい取扱方向(案)の対象種は、イネ科植物、ハリエンジュ、(外国産)在来緑化植物とされている。
⑩	海外の評価 ISSG掲載の在来種以外:Lists of Invasive Alien Species (IAS)、https://www.iucngisd.org/gisd/
⑪	その他 検討委員会からの情報提供等
⑫	2024年度に、リスト検討会委員、関係省、地方環境事務所及び地方公共団体等に行った意向調査であげられた種類。

＜主な参考文献(略称)＞

Bossard, C. C., J. M. Randall and M. C. Hochovsky. 2000. Invasive Plants California's Wildlands. University of California, Berkeley. 360pp. (PCW)

Centre of Agriculture and Biosciences International. Invasive Species Compendium. <https://www.cabidigitallibrary.org/product/QI> (CABI)

海老原淳(2016)日本産シダ植物標準図鑑1. 学研プラス. 東京. (海老原図鑑1)

Flora of North America http://www.efloras.org/flora_page.aspx?flora_id=1 (FNA)

Global Compendium of Weeds、<http://www.hear.org/gcw/index.html>(GCW)

橋本梧郎(1996)ブラジル産薬用植物事典. アボック社. (ブラジル)

林弥栄(1985)山溪カラー名鑑日本の樹木. 山と溪谷社. (樹木)

Holm L., Doll J., Holm E., Pancho J., Herberger J. 1997. World weeds, Natural histories and distribution. John wiley & Sons, inc. pp 1129 (WWND)

Holm, L. G., J. V. Pancho, J. P. Herberger, and D. L. Plucknett (1991) A Geographical Atlas of World Weeds. Krieger Publishing Company, Malabar, Florida.(GAWW)

Holm L.G., Plucknett D.L., Pancho J.V., Herberger J.P.(1991) The world's worst weeds. . Krieger Publishing Company, Malabar, Florida. pp. 609. (TWWW)

堀田満・緒方健・新田あや・星川清親・柳宗民・山崎耕宇(1989)世界有用植物辞典. 平凡社. (有用)

星野卓二・正木智美・西本真理子(2011)日本カヤツリグサ科植物図譜. 平凡社. (カヤツリグサ)

岩槻邦男(1992)日本の野生植物シダ. 平凡社. (シダ)

岩月善之助(2001)日本の野生植物コケ. 平凡社. (コケ)

JFコード(日本花き取り引きコード)センター <http://www.jfcode.jp/TOP.aspx>(JF)

角野康郎(2014)ネイチャーガイド日本の水草. 文一総合出版. (角野)

桑原義晴(2008)日本イネ科植物図譜. 全国農村教育協会. (イネ2)

梶田結衣・米倉浩司・遠山弘法・赤井賢成・天野正晴・阿部篤志・内貴章世(2022)沖縄県西表島における外来植物目録. 大阪市立自然史博物館研究報告. 76: 125–141. (梶田ら2022)

Kaufman S.R. and Kaufman W. (2012) Invasive plants.A guide to identification, impacts,and control of common North American species. Stackpol books, pp.518 (Kaufman)

草薙得一・近内誠登・芝山秀次郎(1994)雑草管理ハンドブック. 朝倉書店. (雑管)

邑田仁・米倉浩司(2012)日本維管束植物目録. 北隆館. (目録)

長田武正(1989)増補日本イネ科植物図鑑. 平凡社. (イネ)

大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司(2015)改訂新版日本の野生植物 1. 平凡社. 東京.(野生植物1)

大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司(2016)改訂新版日本の野生植物 2. 平凡社. 東京.(野生植物2)

大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司(2016)改訂新版日本の野生植物 3. 平凡社. 東京.(野生植物3)

大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司(2017)改訂新版日本の野生植物 4. 平凡社. 東京.(野生植物4)

大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司(2017)改訂新版日本の野生植物 5. 平凡社. 東京.(野生植物5)

大川智史・林将之(2016)ネイチャーガイド琉球の樹木. 奄美・沖縄～八重山の亜熱帯植物図鑑.文一総合出版(琉球樹木).

大野照好・片野田逸朗(1999)琉球弧・野山の花. 南方新書. (琉球弧)

尾崎章・河瀬晃四郎・山中雅也(1991)山溪カラー名鑑観葉植物. 山と溪谷社. (観葉)

Institute of Pacific Islands Forestry, Pacific Island Ecosystems at Risk (PIER) Plant threats to Pacific ecosystems. <http://www.hear.org/pier/index.html> (PIER)

Royal Botanic Gardens, Kew, Plants of the World Online. <https://powo.science.kew.org/>(POWO)

斎藤洋三・井出武・村山貢司(2006)新版・花粉症の科学. 化学同人. (花粉)

坂崎信之(1998)日本で育つ 熱帯花木植栽事典. アボック社. (熱帯花木)

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(1982)日本の野生植物草本Ⅰ 単子葉類. 平凡社. (草本Ⅰ)

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(1982)日本の野生植物草本Ⅱ 離弁花類. 平凡社. (草本Ⅱ)

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(1982)日本の野生植物草本Ⅱ 合弁花類. 平凡社. (草本Ⅲ)

佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫(1989)日本の野生植物木本Ⅰ. 平凡社. (木本Ⅰ)

佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫(1989)日本の野生植物木本Ⅱ. 平凡社. (木本Ⅱ)

清水建美(2003)日本の帰化植物. 平凡社. (帰化植物)

清水矩宏・宮崎茂・森田弘彦・廣田伸七(2005)牧草・毒草・雑草図鑑. 全国農村教育協会. (牧草)

清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七(2001)日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会. (写真図鑑)

自然環境研究センター(2008)日本の外来生物. 平凡社. (外来生物)

鈴木基夫・横井政人(1998)山溪カラー名鑑園芸植物. 山と溪谷社. (園芸)

太刀掛優・中村慎吾(2007)改訂増補帰化植物便覧. 比婆科学教育振興会. (便覧)

高橋秀男・勝山輝男(2000)山溪ハンディ図鑑3 樹に咲く花、離弁花①. 山と溪谷社. (樹の花3)

高橋秀男・勝山輝男(2000)山溪ハンディ図鑑4 樹に咲く花、離弁花②. 山と溪谷社. (樹の花4)

高橋秀男・勝山輝男(2000)山溪ハンディ図鑑5 樹に咲く花、合弁花・単子葉・裸子植物. 山と溪谷社. (樹の花5)

高野信雄(1989)粗飼料・草地ハンドブック. 養賢堂. (粗飼料)

竹松哲夫・一前宣正(1987)世界の雑草Ⅰ—合弁花類—. 全国農村教育協会. (世雑Ⅰ)

竹松哲夫・一前宣正(1993)世界の雑草Ⅱ—離弁花類—. 全国農村教育協会. (世雑Ⅱ)

竹松哲夫・一前宣正(1993)世界の雑草Ⅱ—離弁花類—. 全国農村教育協会. (世雑Ⅱ)

農研機構畜産草地研究所, 写真で見える外来雑草, 侵入危惧雑草種の発芽特性と防除方法. https://www.naro.go.jp/laboratory/nilgs/weed_prevention/index.html(農研)

豊田武司(2003)小笠原植物図譜(増補改訂版). アボック社. (小笠原)

豊田武司(2014)小笠原諸島固有植物ガイド. ウッズプレス. (小笠原固有)

塚本洋太郎(1994)園芸植物大事典全3巻. 小学館. (園芸事典)

植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹(2010)日本帰化植物写真図鑑第2巻. 全国農村教育協会. (写真図鑑)

植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹(2015)増補改訂日本帰化植物写真図鑑第2巻. 全国農村教育協会. (写真図鑑)

United States Department of Agriculture, Natural Resources Conservation Service, plants Database. <http://plants.usda.gov/java/>(USDA)

山崎美津夫・山田洋(1994)世界の水草Ⅰ. ハロウ出版社. (水草Ⅰ)

山崎美津夫・山田洋(1994)世界の水草Ⅱ. ハロウ出版社. (水草Ⅱ)

山崎美津夫・山田洋(1994)世界の水草Ⅲ. ハロウ出版社. (水草Ⅲ)

米倉浩司・梶田忠(2003-)BG Plants 和名-学名インデックスJ(YList)http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html

Weber, E. 2003. Invasive Plant Species of the World、A Reference Guide to Environmental Weeds、CABI Publishing. (IPSW)

WFO (2022): World Flora Online. Published on the Internet; <http://www.worldfloraonline.org>. Accessed on: 16 May 2022(WFO)

＜種別の参考文献＞

引用形式	文献	種名
EPPO	European and Mediterranean Plant Protection Organization (EPPO) Global Database, https://gd.eppo.int/	キダチカッコウアザミ
Uwimana	Uwimana B., D’andrea L., Felber F., Hooftman D.A., Den Nijs H.C., Smulders M.J., et al. (2012) A Bayesian analysis of gene flow from crops to their wild relatives: cultivated (<i>Lactuca sativa</i> L.) and prickly lettuce (<i>L. serriola</i> L.) and the recent expansion of <i>L. serriola</i> in Europe. <i>Molecular Ecology</i> 21: 2640–2654.	トゲチシャ
D’Andrea	D’Andrea L., Felber F., Guadagnuolo R. (2008) Hybridization rates between lettuce (<i>Lactuca sativa</i>) and its wild relative (<i>L. serriola</i>) under field conditions. <i>Environmental Biosafety Research</i> 7(2): 61–71.	トゲチシャ
鬼頭ら2019	鬼頭誠・玉城杏菜・中谷敬子(2019)キバナツノクサネム (<i>Sesbania cannabina</i>) とその近縁種 <i>S. rostrata</i> の種子生産特性からみた雑草化の可能性. <i>雑草研究</i> 64(1):1–4.	キバナツノクサネム
中村2015	中村功(2015)ツユクサ科イボクサ属の日本新産外来種アレチイボクサ. <i>The Journal of Japanese Botany</i> 90: 215–217.	アレチイボクサ
中岡ら2020	中岡望・福川恵利香・比嘉基紀・石川慎吾(2020)高知市における外来木本チュウゴクアカギ <i>Bischofia polycarpa</i> (コムカンソウ科)の逸出とその分布拡大の可能性. <i>植生学会誌</i> 37(1):1–12.	チュウゴクアカギ
中田・川住2015	中田政司・川住清貴(2015)富山県高岡市で野生化した外来水草ラージパールグラス. <i>富山県中央植物園研究報告</i> 21:23–27.	マルバヒメアメリカアゼナ
藤井ら2016	藤井聖子・中村俊之・山ノ内崇志・角野康郎(2016)徳島県海部川水系母川における外来水生植物ラージパールグラス侵入の現状. <i>水草研究会誌</i> 103:1–7.	マルバヒメアメリカアゼナ
山崎・田金2020	山崎海都・田金秀一郎(2020)鹿児島県の外来植物 V: アマゾンチカガミ <i>Limnobiium laevigatum</i> (Humb. et Bonpl. ex Willd.) Heine. <i>Nature of Kagoshima</i> 47:245–248.	アマゾンチカガミ
大森2010	大森威宏(2010)群馬県新産外来植物・シラユキゲシ (<i>Eomecon chionantha</i> Hance: ケシ科). <i>群馬県立自然史博物館研究報告</i> 14:125–126.	シラユキゲシ
USDA2021	United States Department of Agriculture Animal and Plant Health Inspection Service (2021) Weed Risk Assessment for Hydrocleys nymphoides (Alismataceae).	ミズヒナゲシ
猪瀬ら2015	猪瀬礼璃菜・兼子伸吾・黒沢高秀(2015)福島県喜多方市ひめさゆりの丘の植物相と絶滅危惧植物の現状. <i>福島大学地域創造</i> 26(2):124–141.	ブタクサ、ブタナ、ヘラオオバコ
菊池ら2015	菊地賢・金指あや子・大曾根陽子・澤田興之・野村勝重(2015)絶滅危惧種ハナノキの自生地域における近縁外来種アメリカハナノキの植栽混入. <i>日本緑化工学会誌</i> 40(3):457–464.	アメリカハナノキ
田中・田中2018	田中優太郎・田中麻理(2018)屋久島における外来植物の観察記録. <i>Nature of Kagoshima</i> 44:383–386.	ベンガルヤハズカズラ
辻・日置2017	辻真弥・日置佳之(2017)種特性からみた外来植物の侵略性評価モデルの作成. <i>日本緑化工学会誌</i> 43(1):33–38.	アカボシツリフネ、オオフタバムグラ、ケクロピア・シュレベリアナ、アフリカハウセンカ、コゴメミズ、カッコウアザミ、ケツメクサ、タワダギク
吉川2009	吉川正人(2009)コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る ナガミヒナゲシ (<i>Papaver dubium</i> L.). <i>日本緑化工学会誌</i> 35(4)..	ナガミヒナゲシ
Cooper&Johnson. 1884	Cooper. M. and Johnson. (1884) A. Poisonous Plants in Britain and their Effects on Animals and Man. HMSO	ナガミヒナゲシ
中野2015	中野敬一(2015)緑化樹シマトネリコの生態影響について. <i>都市有害生物管理</i> 5(1): 15–16.	シマトネリコ
下野・姉川2023	下野嘉子・姉川盤音(2023)絶滅危惧種ヒメフウロにおける在来および外来系統間の生育特性の比較および交雑可能性の評価. <i>自然保護助成基金助成成果報告書</i> 32 (2023): 128–133.	ヒメフウロ
新垣2024	新垣裕治(2024)羽地内海及び屋我地島周辺におけるヒルギダマシ <i>Avicennia marina</i> 及びウラジロヒルギダマシ <i>A. alba</i> の分布拡大と駆除に関する考察. <i>名桜大学紀要</i> 28: 1–8.	ヒルギダマシ
新垣ら2013	新垣裕治・山田慶紀・比嘉博斗(2013)沖縄県屋我地島の饒平名干潟に分布拡大するヒルギダマシ (<i>Avicennia marina</i>) に関する研究: 国内移入したマングローブ種の分布動態. <i>名桜大学総合研究所紀要</i> (22) 17–23.	ヒルギダマシ
Tsunenariら2024	Kaori Tsunenari, Takuro Ito, Masatsugu Yokota, Mayu Shibabayashi, Chiharu Endo, Kuo-Fang Chung, Yoshihisa Suyama, Ayumi Matsuo, Atsushi Abe, Akiyo Naiki, Hiroaki Setoguchi, Takashi Makino, Yuji Isagi(2024)Double migration of the endangered <i>Tricyrtis formosana</i> (Liliaceae) in Japan (絶滅危惧種 <i>タイワンホトオギス</i> (ユリ科) の重複した日本への移入) <i>Scientific Reports</i> 14:957, DOI: https://doi.org/10.1038/s41598-024-51431-x	タイワンホトギス
角野2021	角野康郎(2021)富山県高岡市の湧水に野生化した外来水生植物ヒメウキオモダカ (新称) <i>Sagittaria subulata</i> (L.) Buch. (オモダカ科) <i>植物地理・分類研究</i> 69(2)225–231.	ヒメウキオモダカ
吉田2015	吉田 寛(2015)コマツナギ (<i>Indigofera pseudo-tinctoria</i> Matsum.), 中国産コマツナギ, キダチコマツナギ (<i>Indigofera</i> spp.). <i>日本緑化工学会誌</i> .41(2)351.	キダチコマツナギ
水産庁2024	水産庁(2024)外来魚に立ち向かう.	ミズワタクチビルケイソウ
麦倉ら2022	麦倉佳奈・Eldrin DLR. Arguelles・鎌倉史帆・大塚泰介・佐藤晋也(2022)ミズワタクチビルケイソウ <i>Cymbella janischii</i> の近畿地方からの初記録およびその生細胞の形態観察. <i>Diatom</i> 38: 49–53.	ミズワタクチビルケイソウ